

取扱説明書

6.8V型ワイドVGA / Bluetooth® / USB / チューナー DSP メインユニット
DMH-SZ500

ご購入いただきありがとうございます

- ご使用前に必ず本書をよくお読みいただき、記載された内容にしたがって正しくお使いください。
- 本書は紛失しないよう車の中に保管してください。

お客様登録のお願い

製品に関する情報をお知らせするために、お客様登録をお願いします。

登録は弊社ホームページ「オーナーズリンク」にて可能です。以下URLにアクセスして登録を行ってください。

<https://car-users.pioneer.jp/>



なお、登録時に保証書に記載されている内容が必要になりますので、保証書をお手元にご用意ください。

弊社からの本製品の安全に関する重要なお知らせは、お客様登録をしていただいたお客様にいたします。

必ず登録をしていただきますようお願いいたします。

目次 (P5)

はじめに

初期設定と基本操作

ラジオを聴く /
交通情報 (TI) を聴く

音楽を聴く /
映像を見る /
写真を見る

電話を使う

アプリを
使う Apple CarPlay
Android Auto™

便利な
機能 本機でスマホ操作
WebLink®
スマホの音声認識

設定とシステム情報

本機の接続 /
取り付け




付録 故障かな?と思ったら
メッセージ表示
など

索引 (P85)




安全上のご注意 (安全にお使いいただくために必ずお守りください)

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに及ぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 危険	「人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って生じることが想定される内容」です。
 警告	「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」です。
 注意	「人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」です。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 注意(警告を含む)しなければならない内容です。	 必ず行っていただく強制の内容です。
 禁止(やってはいけないこと)の内容です。	

AV2-v3.3

接続・取り付け

警告



禁止

本機の前面や通風口を塞いだり、紙やフロアマット、布で覆わない
放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。



禁止

DC24V車では使用しない
本機はDC12V \ominus アース車専用です。DC24V車で使用すると火災や故障の原因となります。



禁止

エアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けや配線をしない
エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因となります。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取り付けやアース配線に、保安部品(ステアリング、ブレーキ、タンクなど)のボルトやナットを使用しない
制御不能や発火、交通事故の原因となります。



禁止

視界や運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。

電源コードの被覆を切って、ほかの機器の電源を取らない

電源コードの電流容量がオーバーすると、火災や感電、故障の原因となります。

アンテナは、保安基準に適合しない場所に貼り付けたり、再貼り付けや汎用の両面テープで貼り付けたりしない

視界不良や本機がはがれて、事故の原因となります。

車両メーカーが指定する禁止エリアや車両の操作を妨げる位置に、取り付けや配線をしない

カメラ装置などの動作を妨げるおそれがあり、交通事故の原因となります。車両メーカー、カーディーラーに注意事項を確認してから作業を行ってください。

適合車種以外には取り付けない

交通事故やケガの原因となります。適合車種については、販売店にお問い合わせください。



強制

エアバッグの動作を妨げないように、取り付け位置や角度の調整を行う

エアバッグが動作しなかったり、動作したエアバッグで製品や部品が飛ばされ死亡事故の原因になります。

車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。

取付・取外し・配線は、専門技術者に依頼する

誤った取り付けや配線、取り外しを行うと、車に支障をきたす場合があります。

また、お客様ご自身による取付・配線はケガの原因となりますので、販売店などにご依頼ください。

説明書に従って接続・取り付ける

説明書に従わずに接続・取り付けを行うと、火災や故障の原因となります。

コードの被覆がない部分はテープなどで絶縁する

ショートにより、火災や感電、故障の原因となります。

コード類はしっかりと固定する

コードを固定する付属部品または市販部品を使用してください。ステアリングやセレクトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと、運転操作を妨げ事故の原因となります。また、乳幼児の首などに巻きつく危険があります。

作業前はバッテリーの⊖端子を外す
＋と－経路のショートにより、火災、感電やケガの原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認し、干渉しないように取り付ける

穴あけドリル等がパイプ類、タンク、電気配線などと干渉すると、火災、故障の原因となります。

付属の部品を使用し、固定する

付属の部品以外を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れて運転の妨げになり、事故やケガの原因となります。

取り付けと配線が終わったら、車の電装品が正常に動作するか確認する

正常に動作しない状態で使用すると、火災や感電、交通事故の原因となります。

車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコードを挟み込まないように配線する

断線やショートにより、火災や感電、故障の原因となります。



強制

取り付け場所の汚れ(ごみ、ほこり、油)などを取り除き、しっかりと取り付ける

走行中に外れ、交通事故やケガの原因となります。乗車時に取り付け状態(接着やねじのゆるみなど)を点検してください。

モニター(タブレット)はハザードボタンやエアコン等のコントロールスイッチの操作、警告ランプや各種インジケータの視認を妨げないように取り付ける

走行中の操作やランプの視認に支障があると交通事故の原因となります。



注意



禁止

ヒーターの吹き出し口の近くに設置しない

製品の通風口、放熱板を塞ぐ場所には設置しない

熱風が直接当たったり、放熱が不十分となり、内部温度が上昇し、火災や事故の原因となります。

直射日光やヒーターの熱風が直接当たる場所に取り付けない

内部温度が上昇し、火災や故障の原因となります。

本機を不安定なところに取り付けない

落下などによる事故やケガ、故障の原因となります。

コード類は途中で切断しない

コード類にはヒューズがついている場合があるため、保護回路が働かなくなり、火災の原因となります。

コード類の配線は、車体の高温部・金属部・可動部に接触させない

断線やショートによる火災や感電の原因となります。



禁止

水のかかるところや結露、ほこり、油煙の多いところに取り付けない

発煙や発火、故障の原因となります。



強制

アンテナやカメラは車幅や車の前後からはみ出さない場所に取り付ける

歩行者などに接触し、事故の原因となります。

アンテナコード等を車内に引き込む際は、雨水が侵入しないように配線する

雨水が車内に侵入すると、火災や感電の原因となります。

使用方法

警告



禁止

画面だけを見ながらの運転はしない

必ず目視による安全確認を行いながら運転してください。距離感の違いとカメラの死角により人や物にぶつかるとおそれがあり、思わぬ事故の原因となります。

大きな音量で使用しない

警告音など車外の音が聞こえない状態で運転すると、交通事故の原因となります。

ネジやUIMカードなどの小物部品は乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

液体で濡らさない

発煙、発火、感電の原因となります。



分解禁止

分解や改造、半田付け等の修理をしない

交通事故や火災、感電の原因となります。本機の改造は電波法違反となり罰則の対象となることがあります。



禁止

ぶら下がったり、押したり引っ張ったりして、力を加えたりしない

ケガや車両の変形および故障の原因となります。

画面が映らない、音が出ない、音声割れる、歪むなどの異常・故障状態で使用しない

思わぬ事故や火災、感電の原因となります。



強制

実際の交通規制に従って走行する

ルート案内が実際の交通規制に反している場合があります。交通事故の原因となります。

ヒューズを交換するときは、規定容量（アンペア）のヒューズを使用し、専門業者に依頼する

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災や故障の原因となります。ヒューズ交換は販売店などに依頼してください。

夜間、トンネルなど暗い場所で使用する場合、製品の明るさは運転に支障のないように適切に調整する

注意



禁止

本機は自動車用途以外で使用しない
発煙や発火、感電やケガの原因となります。



接触禁止

スピーカーやアンプの放熱部に手を触れない

やけどの原因となります。



禁止

本機の上に重いものを乗せたり、乗ったりしない

落下させる、たたくなど、強い衝撃を与えない

故障や火災の原因となります。

運転者は運転中に画像を注視しない
前方不注意となり交通事故の原因となります。

可動部やメディア挿入口に手や指、異物を入れない

ケガや感電、火災や故障の原因となります。

異常時の問い合わせ

警告



強制

万一異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ず販売店かサービス相談窓口にご相談する

そのまま使用すると、思わぬ事故や火災、感電の原因となります。

目次

本書の見かた	8	iPhone /スマートフォンと Bluetooth®接続するとき ...	21
本書の記載について.....	8	Bluetooth の接続と設定.....	21
本書の見かた	8		
はじめに	9	Wi-Fi®の設定.....	23
安全走行のために	9	Wi-Fi の設定	23
バッテリー上がりを防ぐために ...	9		
液晶画面の正しい使いかた.....	9	バックカメラ、リアモニター、 ステアリングリモコンを 組み合わせたとき.....	24
電波に関するご注意.....	10		
USB 機器について	10		
iPhone について	11		
こんなことができます	12		
本機を便利に使うには	13		
各部の名称とはたらき	14		
本機の電源について	15		
初めて電源を入れるとき	15	ラジオを聴く	25
スピーカーモード設定の変更	16	ラジオの受信	25
		バンドの切りかえ	25
		放送局を選ぶ	25
		放送局の登録	26
		交通情報 (TI)	26
		Bluetooth接続機器内の	
		音楽を再生する.....	27
		AV プロファイルについて.....	27
		再生を開始.....	27
		USB機器内の	
		音楽を再生する.....	29
		本機に USB 機器を取り付ける ...	29
		本機から USB 機器を取り外す ...	29
		USB機器内の	
		動画 / 静止画を再生する	31

AUX(外部入力)を使って
映像／音声を再生する 32

電話を使う
(ハンズフリー通話) 33

Phone メニュー 33

電話のかけかた 33

通話中の操作 34

受話音量の調節 35

電話の受けかた 35

着信音量の調節 35

ハンズフリーエコー

(残響音) の軽減 35

Apple CarPlayを
利用する 36

運転席位置の設定 36

iPhone の接続 36

音量調節 36

Android Autoを
利用する 37

運転席位置の設定 37

スマートフォンの接続 37

音量調節 38

本機でiPhone / スマートフォン
を操作する (WebLink[®]) 39

WebLink[®] を利用する 39

iPhone / スマートフォンの
音声認識機能を使う 40

iPhone の

音声認識機能を使う (Siri) 40

スマートフォンの

音声認識機能を使う 40

各種設定をする 41

設定画面の表示 41

システム設定 41

表示設定 45

オーディオ設定 46

カメラ設定 50

スマートフォン接続設定 51

ワイド画面の拡大方法の変更 51

接続・取り付け上の ご注意.....	52
-----------------------	----

接続・取り付け部品の 確認.....	52
-----------------------	----

車に本機を接続する.....	53
接続の前に知ってほしいこと.....	53
システムの接続.....	54
電源コードの接続.....	56
外部アンプの接続.....	60
サブウーファースの接続.....	62
iPhone / スマートフォンの接続.....	64

車に本機を取り付ける.....	65
取り付けの前に 知ってほしいこと.....	65
本機取り付け.....	66
GPS アンテナの取り付け.....	67
ハンズフリー通話用マイクの 取り付け.....	68

動作を確認する.....	69
--------------	----

付録.....	70
故障かな?と思ったら.....	70
こんなメッセージが 表示されたら.....	72
保証書とアフターサービス.....	74
商標・著作権など.....	74
再生可能なメディアと ファイルについて.....	76
用語解説.....	79
仕様.....	81

索引.....	85
---------	----

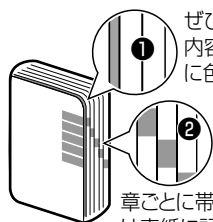
本書の見かた

本書の記載について

- 本書では便宜上、Android™ OS 搭載の端末を「スマートフォン」と表記しています。
- 本書では便宜上、Mass Storage Class で接続されている USB メモリーなどを「USB メモリー」と表記し、特に制限しない場合は「USB」または「USB 機器」と表記しています。
- 本書では「アプリケーションソフトウェア」を「アプリ」と表記しています。
- 本書に掲載しているイラストや画面例は、実際の製品と異なる場合があります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。

本書の見かた

• 本書側面



ぜひ知っておいていただきたい内容、概要を説明しているページに色を付けています。

章ごとに帯を付けています。章のタイトルは表紙に記載されています。

• 操作手順

1、2、3・・・

番号の順に操作すると、目的の機能を使うことができます。

• 参照

「○○」（→PXX）または（→PXX）

参照していただきたい箇所を表記しています。

「○○」：参照箇所のタイトル情報を表記しています。

（→PXX）：参照箇所のページを表記しています。

• 注意

ご注意

機能を使う際の注意事項を表記しています。

• メモ



操作手順の補足情報を表記しています。

• 本体のボタン



ボタン、



ボタン、+/-（音量）ボタン

本機の左側のボタンを示しています。

• 画面のアイコン



など

画面に表示されるタッチキーを示しています。

• 画面の文字列

システム設定、日時設定、表示設定など

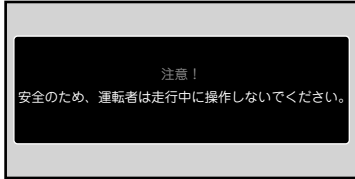
タッチすることができる画面の文字列を示しています。

はじめに

安全走行のために

パーキングブレーキのON / OFF、および車速を検知し、走行中に映像を見ることができないようになっています。

走行中は次のような画面が表示されます。



メッセージは、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけると解除されます。

本機の操作は、安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。

液晶画面の正しい使いかた

■ 取り扱い上のご注意

- 市販の液晶保護フィルムを貼ると、タッチパネルでの操作に支障が出る場合があります。
- 直射日光の当たる状態で長時間使用すると、高温になり、液晶画面が故障するおそれがあります。できる限り直射日光が当たらないようにしてください。
- 液晶画面は、車内での視認性向上のためにむき出しになっています。故障するおそれがありますので、液晶画面を強く押さないでください。
- キズや汚れの原因になりますので、液晶画面に触れるときは、必ず指先で触れてください。

■ 液晶画面について

- 液晶画面の中に小さな黒い点や明るく光る点（輝点）が出る場合があります。これは、液晶画面特有の現象で故障ではありません。
- 液晶画面に直射日光が当たると、光が反射し画面が見づらくなりますので、直射日光をささぎってください。
- 周辺温度が低い状況でお使いになる場合は、液晶の特性上残像が目立ちやすくなり画質が劣化することがあります。周辺温度が高まれば通常画質に戻ります。

■ LED バックライトについて

- LED バックライトの寿命は3万時間以上ですが、高温下でお使いになると寿命が短くなる場合があります。
- LED バックライトが寿命になると、画面が暗くなったり、映像が映らなくなったりします。このときはお買い上げの販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご連絡ください。

■ お手入れについて

- 液晶画面に付いたホコリや汚れを清掃するときは、電源を切ってから、柔らかいきれいな布で拭き取ってください。
- 液晶画面を拭くときは、ツメで引っかかないように注意してください。液晶画面にキズが付くと映像が見づらくなります。
- 濡れたぞうきんや化学ぞうきんは使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は使用しないでください。

電波に関するご注意

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また本機は日本国内のみで使用できます。
- 下記の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
 - 分解／改造すること。
 - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。
- 本機の無線機能は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数帯の電波はいろいろな機器（電子レンジ、無線 LAN 機器など）が使用していますので、電波の干渉により、本機の無線機能の音声がとぎれたり聞きとりにくくなる場合があります。また、他の機器の動作や性能に影響を及ぼすことがあります。本機は電波干渉の影響を受けにくい方式ですが、下記の内容に注意してください。
 - 無線 LAN を利用した AV 機器・防犯機器などを使用している環境で、本機の無線機能を使うと、音声がとぎれたり、無線 LAN 機器の動作に大きな影響を与えることがあります。
- その他、下記の機器でも、2.4 GHz の周波数帯の電波を使用しているものがあります。これらの機器の周辺では、声かとぎれたり、使えなくなる場合があります。また、相手の機器の動作に影響を与える場合があります。
 - 火災報知機・ワイヤレス AV 機器（テレビ、ビデオ、コンピューターなど）
 - 工場や倉庫などの物流管理システム・鉄道車両や緊急車両の識別システム
 - マイクロ波治療器・ゲーム機のワイヤレスコントローラー
 - 自動ドア・万引き防止システム（書店や CD ショップなど）
 - 自動制御機器・その他、Bluetooth 対応機器や VICS（道路交通網システム）
 - アマチュア無線局など

2.4 FH1



2.4 FH 1
① ② ③

- ① 「2.4」 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
- ② 「FH」 変調方式を表します。
- ③ 「1」 想定される干渉距離（約 10 m）を表します。

USB 機器について

- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。
- 本機との組み合わせで使用時に携帯デジタルプレーヤーや USB メモリーのデータなどが消失した場合でも、その補償については責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本機と組み合わせで使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。

■ 本機との接続について

- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外（USB 扇風機など）は接続しないでください。
- USB 機器を本機に接続する際は、付属の USB 延長ケーブル以外は、使用しないでください。
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- USB ハブを使用しての接続には対応していません。

■ 保管上のご注意

- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。

■ 本機が対応する iPhone

- 本機は以下の iPhone に対応しています。本機で確認済みの iPhone のモデルは次のとおりです。これ以前のモデルについては保証できません。
 - iPhone 14 Pro Max
 - iPhone 14 Pro
 - iPhone 14 Plus
 - iPhone 14
 - iPhone SE (第3世代)
 - iPhone 13 Pro Max
 - iPhone 13 Pro
 - iPhone 13
 - iPhone 13 mini
 - iPhone 12 Pro Max
 - iPhone 12 Pro
 - iPhone 12
 - iPhone 12 mini
 - iPhone SE (第2世代)
 - iPhone 11 Pro Max
 - iPhone 11 Pro
 - iPhone 11
 - iPhone XS Max
 - iPhone XS
 - iPhone XR
 - iPhone X
 - iPhone 8 Plus
 - iPhone 8
- 最新の情報についてはカロッツェリアホームページ (<https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/support/ipod.html>) でご確認ください。
- 操作方法は、iPhone のモデルやソフトウェアのバージョンによって異なることがあります。
- iPhone を接続するには、Lightning ケーブル - USB 変換ケーブル (例: 「CD-IU010」) が必要です。

ご注意

- iPhone は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPhone を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPhone は必ず固定してください。iPhone が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPhone の取り扱いについて詳しくは、iPhone の説明書をお読みください。
- 本機と組み合わせて使用しているときに iPhone のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

こんなことができます

お持ちの iPhone / スマートフォンをつなぐことで、さまざまなエンターテインメントを楽しむことができます。音楽を聴いたり、映像を楽しんだりすることができます。

本機の大画面で iPhone / スマートフォンを操作したい

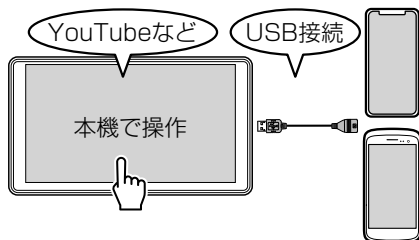
本機に iPhone / スマートフォンを接続して、Apple CarPlay または Android Auto を使用することによって、本機からタッチ、スワイプ、ドラッグなどの操作ができます。

また、WebLink[®] 互換のアプリケーションを使用することによって、本機に接続した iPhone / スマートフォンの画面を本機に映して、YouTube などを大画面で楽しむことができます。

Apple CarPlay を利用する → P36

Android Auto を利用する → P37

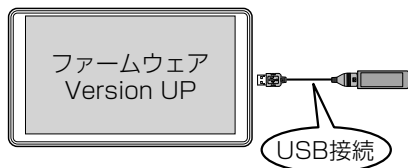
本機で iPhone / スマートフォンを操作する (WebLink[®]) → P39



本機の最新機能を利用したい

本機に USB メモリーを接続して、本機のファームウェアを更新することができます。

ファームウェアを更新することによって、本機を最新の状態にすることができます。



本機を便利に使うには

ここでは、利用目的別に本機の機能を紹介します。

目的の機能を利用する前に、各機能のページを参照して正しく利用してください。

便利な機能を使いたい

本機に iPhone / スマートフォンの画面を表示して操作したり、マイク機能を使って iPhone / スマートフォンの音声認識機能を使うことができます。

Apple CarPlay を
利用する

→ P36

Android Auto を
利用する

→ P37

本機で iPhone / スマートフォン
を操作する (WebLink[®])

→ P39

iPhone / スマートフォン
の音声認識機能を使う

→ P40

別売品を使いたい

別売品の各設定、接続を行うことにより使うことができます。

バックカメラの設定

→ P50

リアモニターの接続

→ P54

ステアリングリモコン
の設定

→ P42

エンターテイメントを楽しみたい

対応 Bluetooth 機器や USB 機器などを本機に接続して音楽を聴いたり、動画や静止画を再生できます。

Bluetooth Audio で
再生する

→ P27

USB 機器を接続して
再生する

→ P29

AUX(外部入力)を
使って再生する

→ P32

ラジオや交通情報 (TI) を聴く / 電話を使いたい

FM、AM ラジオや交通情報を聴くことができます。また、電話をハンズフリーで通話できます。

ラジオを聴く

→ P25

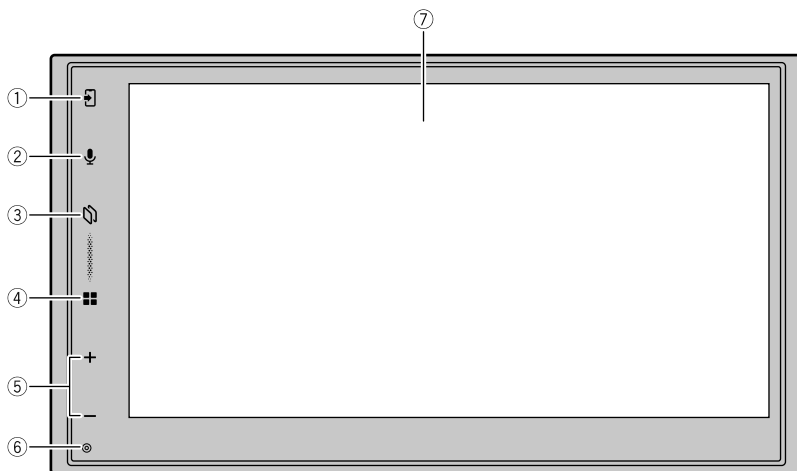
交通情報 (TI) を
聴く

→ P26

電話を使う

→ P33

各部の名称とはたらき



① ボタン

Apple CarPlay を使用している場合は Apple CarPlay の Phone メニュー画面が表示されます。

Android Auto を使用している場合やハンズフリーでの接続中は通常の Phone メニュー画面が表示されます。デバイスが登録されていないときはデバイスの検索をするかどうかを選択する画面を表示します。デバイスが登録されているときは接続デバイス選択リストを表示します。

メモ

デバイスが接続されていないときは他のボタンと異なるイルミネーションカラーとなります。

② ボタン

音声認識対応端末が Bluetooth または USB 経由で本機に接続されているときに押すと、音声認識操作ができます。

Apple CarPlay または Android Auto を使用していないときにこのボタンを長く押すと、Bluetooth 接続可能な機器を検索して表示します。

③ ボタン

Apple CarPlay/Android Auto 画面に切りかえます。このボタンは Apple CarPlay または Android Auto が使用可能な場合のみ押すことができます。

④ ボタン

ホーム画面を表示します。



(→ P18)

長く押すと交通情報 (TI) を受信します。

もう一度長く押すと、交通情報 (TI) がオフになります。

(→ P26)

⑤ + / - (音量) ボタン

音量を調節します。画面上に表示される  /  でも音量を操作できます。

⑥ リセットボタン

ボールペンの先などで押すと、本機をリセットできます。本機の表示や動作がおかしくなった際などに押してください (一部の設定が消去されますのでご注意ください)。

⑦ 画面

液晶画面です。各ソース等の画面が表示されます。画面上でタッチ等の操作を行うことができます。

(→ P17)

本機の電源について

本機に電源ボタンはありません。車のエンジンスイッチをON（ACCをON）にすると自動的に電源が入り、エンジンスイッチをOFFにすると切れます。

■ Power OFF モードについて

ソースの選択画面で Power OFF を選ぶと、ほぼすべての機能が停止した状態になります。本体ボタンのいずれかを押しと Power OFF モードは解除されます。

以下の操作によっても解除されます。

- ・車のシフトレバーを (R) にしてバックカメラを表示させたとき。
- ・システム設定の「ACC ON 設定」を「前回のソース」にして本機の電源を入れ直したとき（ACC オフ / ACC オン）。

■ デモモードについて

デモモードは、各ソースや本機の機能を表示する機能です。

デモモードは、デモモードの設定がオン（→ P43）で且つしばらく操作をしていないときに表示されます。

本体ボタンや画面をタッチするとデモモードは解除されます。

工場出荷時はオンに設定されています。

デモモードは、本機を初めて接続したとき、およびバッテリー交換後、初めて車のエンジンスイッチをON（ACCをON）にしたときに表示されます。

エンジンスイッチをOFF（ACCをOFF）することで、設定はオフになります。

初めて電源を入れるとき

1 エンジンスイッチをONにする

起動画面が数秒間表示され、初期起動時の設定画面が表示されます。

2 スピーカーモードを設定する

車の現在のスピーカー配置と接続方法に合わせてスピーカーモードを選択します。

右の参考例を元来选择してください。

スタンダードモード	フロント・リアの4スピーカーシステム、またはフロント・リア・サブウーファーの6スピーカーシステムを構築できます。
ネットワークモード	高・中・低音域のそれぞれの音域（バンド）を専用のアンプとスピーカーで再生する3-wayマルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築できます。

接続方法については以下を参照してください。（→ P56）、（→ P60）

3 OKにタッチする

免責画面が表示されます。

4 画面の内容を確認してOKにタッチする

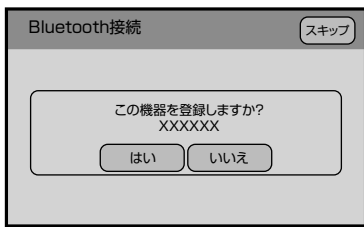
Bluetooth機器の接続待機画面が表示されます。

5 iPhoneまたはスマートフォンのBluetooth機能をオンにして本機に接続し、はいにタッチする

Bluetooth機器の接続待機画面のままiPhoneまたはスマートフォンを操作してください。

接続方法は機器によって異なります。お使いのiPhoneまたはスマートフォンの説明書をご覧ください。





Bluetoothの接続が完了するとホーム画面が表示されます。

メモ

- 接続した機器がiPhoneでApple CarPlayが使える状態のときは、Apple CarPlayを本機で利用するかどうかのメッセージが表示されます。「はい」にタッチするとApple CarPlayの設定を行い、完了するとApple CarPlayの画面を表示します。「いいえ」にタッチするとApple CarPlayの設定を行わずに、Bluetoothの接続設定のみ行ってホーム画面を表示します。
- 初期起動時にBluetoothの接続設定を行うと、ハンズフリー通話やApple CarPlay/Android Autoをすぐに使用することができます。
- 「スキップ」をタッチするとBluetooth機器の接続設定を中止して、ホーム画面を表示します。

スピーカーモード設定の変更

スピーカーモード設定をセットした後は、工場出荷時の状態に戻さないと変更することはできません。

実際の車のスピーカー構成などを変更してスピーカーモードを変更する必要があるときは初期化を実施して最初からやり直してください。

ご注意

設定を初期化するとオーディオ設定が初期値に戻ります。

- 1 **戻る** ボタンを押して、ホーム画面を表示する
- 2 **設定**、**システム設定**の順にタッチする
- 3 **設定初期化**にタッチする
- 4 **OK**にタッチする

本機が再起動後、初期起動時の設定画面が表示されます。

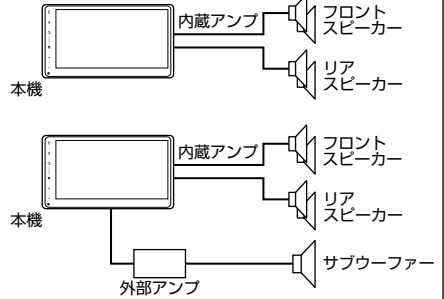
スピーカーモード設定時の注意

スピーカーモードを設定するときは、スピーカーシステムに合わせてスピーカーモードを選択してください。

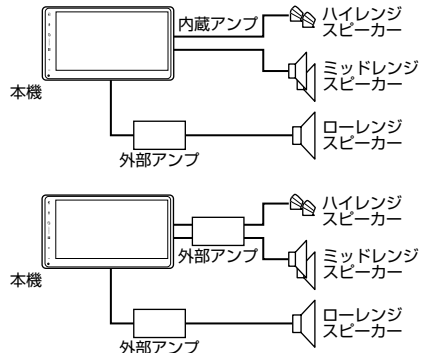
ご注意

ネットワークモードに対応したスピーカーシステムを接続している場合は、スピーカーモード設定をスタンダードモードに設定しないでください。スピーカーが破損するおそれがあります。

スタンダードモードシステム例



ネットワークモードシステム例



画面の基本操作について

ご注意

安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。

基本操作

本機はタッチパネルを使って操作します。

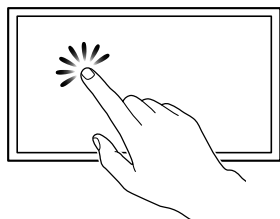
ご注意

画面は指でタッチしてください。指以外でタッチすると、画面を傷つけるおそれがあります。

本書では、以下の用語を使って画面の操作を説明しています。

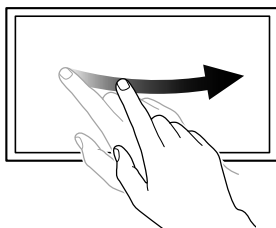
• タッチ

指で軽く目的の箇所をたたく操作です。



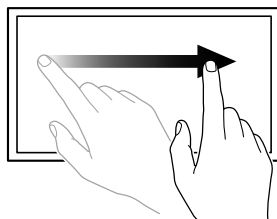
• スワイプ

指を画面に触れたまま、指を滑らせる操作です。



• ドラッグ

指で目的の箇所に触れたまま、任意の場所まで指をスライドする操作です。



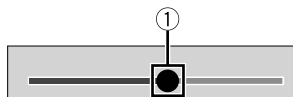
初期設定と基本操作

■ 共通のタッチキー

設定画面などで表示される、すべての操作に共通のタッチキーです。

	画面を閉じます。
	前の画面に戻ります。設定内容は保持されます。

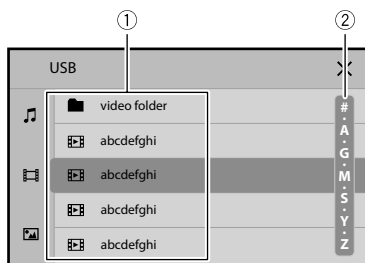
■ タイムバーの操作



- 再生したい時間までドラッグします。指を離れた位置（時間）から再生されます。再生時間は、タイムバーに合わせて表示します。

■ リスト画面の操作

本機では、機能や目的に応じてリスト画面が表示されます。



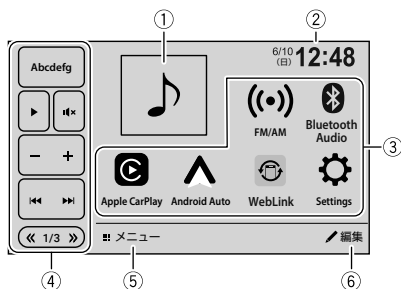
- 目的の項目にタッチします。
- 項目のインデックスです。タッチした文字の項目へ移動します。

ホーム画面

ホーム画面のレイアウトは、変更することができます。

ご注意

画面操作は、安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



* 画面は一例です。

- | | |
|---|--|
| ① | アートワーク表示
現在選択しているソース / アプリのアートワークを表示します (可能な場合)。 |
| ② | 時計
タッチすると、時刻の設定画面を表示します。 |
| ③ | お気に入りソース / アプリエリア
タッチすると、選択したソース / アプリ画面を表示します。
よく使うソース / アプリのアイコンを配置すると便利です。 |
| ④ | ショートカット
よく使う機能はショートカットから操作できます。(→ P19) |
| ⑤ | メニュー
メニュー画面を表示します。(→ P20) |
| ⑥ | 編集
ホーム画面に表示されている項目をカスタマイズできます。 |

メモ

- Wi-Fi接続(Arduino CarPlay/Android Autoとの接続)が失敗または意図せずに切断されると、ホーム画面に再接続が表示されます。
- 再接続をタッチすると再起動するかどうかのメッセージが表示され、OKをタッチすると本機が再起動した後にWi-Fiの再接続(Arduino CarPlay/Android Autoとの再接続)が行われます。

■ ホーム画面のカスタマイズ

ホーム画面に表示されている項目は好みの配置にカスタマイズできます。

メモ

- アートワークと時計は所定の位置に配置されます (自由な位置には配置できません)。
- ホーム画面に追加できるソース / アプリアイコンの最大数は8つまでです (アートワークを非表示にした場合)。
- スマートフォン接続設定の「Android Auto」(→ P51)をオフにした場合、Android Autoのアイコンはホーム画面に表示されません。

ホーム画面を編集モードにする

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 編集にタッチする

ホーム画面編集モードになります。

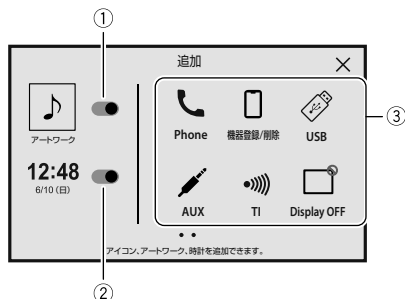
追加	ホーム画面に項目を追加します。
削除	ホーム画面から項目を取り除きます。
完了	ホーム画面編集モードを終了します。

項目を追加する

1 ホーム画面を編集モードにする

2 追加にタッチする

3 追加したい項目にタッチする



* 画面は一例です。

- | | |
|---|--|
| ① | アートワーク
タッチするごとにホーム画面の所定の位置にアートワークを表示する、表示しないを切りかえます。 |
| ② | 時計
タッチするごとにホーム画面の所定の位置に時計を表示する、表示しないを切りかえます。 |

- ③ **ソース/アプリ**
 タッチするとホーム画面にアイコンを追加します。
 画面を左にスワイプすると、残りのアイコンを表示することができます。



ホーム画面に追加した項目が最大数の場合は追加できません。先にホーム画面から項目を取り除く操作を行ってください。

4 **✕** にタッチする

5 **完了** にタッチする

項目を取り除く

1 ホーム画面を編集モードにする

2 **削除** にタッチする

3 取り除きたい項目にタッチする

4 **完了** にタッチする



設定や Apple CarPlay/Android Auto のアイコンは取り除くことはできません。

項目の位置を変える

1 ホーム画面を編集モードにする

2 位置を変えたいアイコンをドラッグする

移動したい位置(空いているスペース)にドラッグします。

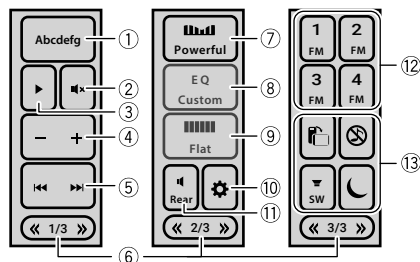
3 **完了** にタッチする

ショートカット

よく使う機能はショートカットから操作できます。

ご注意

画面操作は、安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



- | | |
|---|---|
| ① | AV ソース操作画面を表示します。 |
| ② | 消音します。 |
| ③ | 再生を一時停止します。
一時停止中にタッチすると、再生を開始します。 |
| ④ | 音量を調節します。 |
| ⑤ | 前/次のファイルを選択できます。
ラジオを選択中は周波数から最も近い放送局を自動的に探します。 |
| ⑥ | ショートカットの前後のページを表示します。 |
| ⑦ | イコライザーカーブを「Powerful」に設定します。(→ P48) |
| ⑧ | イコライザーカーブを「Custom」に設定します。(→ P48) |
| ⑨ | イコライザーカーブを「Flat」に設定します。(→ P48) |
| ⑩ | 設定画面を表示します。 |
| ⑪ | リアスピーカーのオン/オフを切りかえます。 |
| ⑫ | ラジオのプリセットチャンネルを選びます。 |
| ⑬ | WebLink® Cast や Source OFF に切りかえたり、サブウーファーやディーマーを設定します。 |



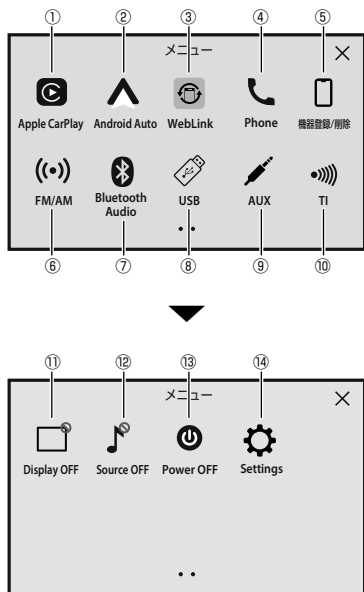
運転席位置の設定(→ P43)によってホーム画面上のショートカットの位置が左右に切りかわります。

メニュー画面

利用したいソースまたはアプリのアイコンをタッチしてください。

ご注意

画面操作は、安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



- ① **Apple CarPlay**
Apple CarPlay ソースの画面に切りかわります。(→ P36)
- ② **Android Auto**
Android Auto ソースの画面に切りかわります。(→ P37)
- ③ **WebLink[®]**
WebLink[®] ソースの画面に切りかわります。(→ P39)
- ④ **Phone**
Phone メニュー画面に切りかわります。(→ P33)
- ⑤ **機器登録 / 削除**
機器が 1 台も登録されていないときは周辺の Bluetooth 機器を探すかどうかのメッセージが表示されます。
機器が 1 台でも登録されていると、接続機器選択画面になります。
- ⑥ **FM/AM**
ラジオ画面に切りかわります。(→ P25)

- ⑦ **Bluetooth Audio**
Bluetooth Audio ソースの画面に切りかわります。(→ P27)
- ⑧ **USB**
USB ソースの画面に切りかわります。(→ P29)、(→ P31)
- ⑨ **AUX**
AUX ソースの画面に切りかわります。(→ P32)
- ⑩ **交通情報 (TI)**
交通情報画面に切りかわります。(→ P26)
- ⑪ **Display OFF**
一時的に画面を消すことができます。
- ⑫ **Source OFF**
いずれかのソースを使用中のみ操作可能で、タッチするとソースをオフにします。
- ⑬ **Power OFF**
本機のほとんどの機能がオフになります。
- ⑭ **Settings**
設定画面に切りかわります。(→ P41)

メモ

- ラジオや交通情報以外のソースまたはアプリを利用するには、本機と対応機器の接続が必要です。
- 以下の場合、Power OFF モードは解除されます。
 - 車がロック中に、リアビューカメラから映像が入力されたとき
 - 本機のボタンを押したとき
 - システム設定の「ACC ON 設定」を「前回のソース」にして本機の電源を入れ直したとき (ACC オフ / ACC オン)

Bluetooth の接続と設定

ハンズフリー機能や Bluetooth Audio 機能を利用するためには、機器を本機に Bluetooth 接続します。

■ 対応する Bluetooth プロファイル

本機のプロファイルは仕様を参照してください。
(→ P81)

- HFP (Hands Free Profile) とは、ハンズフリー通話するためのプロファイルです。
- SPP (Serial Port Profile) とは、シリアル通信するためのプロファイルです。

メモ

Bluetooth 接続ができないときは、「故障かな?と思うたら」(→ P70)を参照してください。

■ Bluetooth 機器を登録 / 接続する

- 本機は 5 台の Bluetooth 機器を登録できます。
- すでに 5 台登録している場合は、登録済の Bluetooth 機器を削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。削除する場合は、**はい**をタッチしてください。他の Bluetooth 機器を削除する場合は**機器一覧**をタッチして一覧から削除してください。
- 登録した 5 台のうち、電話機能として同時に 2 台の Bluetooth 機器を接続することができますが、Bluetooth Audio 機器として接続できるのは常に 1 台です。

1 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能をオンにする

2 Bluetooth 機器を操作して Bluetooth 機器一覧画面を表示する

3 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

4 、Bluetooth 設定 の順にタッチする

5 検索 にタッチする

周辺の Bluetooth 機器を自動的に探します。Bluetooth 機器が見つかると、リスト表示されます。

6 登録する Bluetooth 機器名にタッチする

7 Bluetooth 機器を操作してペアリングを許可する

8 **はい** にタッチする

ペアリングが完了します。

ペアリングが完了すると、自動的に本機と Bluetooth 機器との接続が開始されます。

Bluetooth Audio 機器を再生する場合 (→ P27)

電話を使う場合 (ハンズフリー通話) (→ P33)

メモ

- 一度接続が完了した Bluetooth 機器は、本機に登録され、その後の接続に全て失敗しても次回からリスト表示されます。
- 本機は Bluetooth 接続でハンズフリー通話の電話機 2 台を同時に接続することができます。
- 2 台の Bluetooth 機器がすでに HFP により接続されているとき、新たに接続しようとしている機器が HFP 機器だった場合は、先に接続していた 2 台の機器のうち最初に接続していた方を切断して、新たな機器を代わりに接続します。

2 台の機器を HFP 接続中のときの Bluetooth Audio 機器の接続

2 台同時に HFP 接続しているとき、新たに 3 台目を Bluetooth Audio 機器として接続すると、先に接続していた 2 台のうち最初に接続した方が切断されます。

Bluetooth 設定 (→ P22) の Bluetooth 登録済み機器で、利用用途によって機器を切りかえることができます。

■ メニュー画面から機器を登録 / 接続する

メニュー画面に表示される**機器登録 / 削除**でも機器登録や接続が行えます。

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 **メニュー** にタッチする

3 **機器登録 / 削除** にタッチする

機器が 1 台も登録されていないときは周辺の Bluetooth 機器を探すかどうかのメッセージが表示されます。

はいをタッチすると周辺の機器を探してリスト表示します。

機器が 1 台でも登録されていると、接続機器選択画面になります。

■登録機器を削除する

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 、Bluetooth設定の順にタッチする

3 Bluetooth登録済み機器にタッチする

Bluetooth 接続機器一覧が表示されます。

4 削除したいBluetooth機器名の右側にある にタッチする

5 はいにタッチする

リスト画面から Bluetooth 機器名が削除されます。

6 にタッチする

設定が終了します。

メモ

メニュー画面に表示される **機器登録 / 削除** からでも機器の削除が行えます。

■Bluetooth の設定をする

ご注意

パーキングブレーキが解除されている場合は操作できません。安全な場所にて車を停めてパーキングブレーキをかけてから操作してください。

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 、Bluetooth設定の順にタッチする

Bluetooth 設定画面が表示されます。以下の各設定内容を確認して、必要に応じて設定をしてください。

機器登録 / 削除

本機の Bluetooth 接続のオン / オフを切りかえます。

タッチすること、オン⇄オフが切りかわります。

オン：最後に HFP 接続した Bluetooth 機器に自動で HFP 接続します。

オフ：自動接続されません。


メモ

- 自動接続される順番は、本機に登録された順になります。
- 2 台の HFP 機器を自動的に接続した場合は、あとから接続された機器が Phone メニューの操作対象になります。
- オンに設定していても、Bluetooth 機器の状況によっては自動接続できないことがあります。

自動受話

かかってきた電話に自動応答するかしないかを設定できます。

オン：着信数秒後に自動で通話できます。

オフ： をタッチ後、通話ができます。

メモ

一方が通話中に、もう一方にかかってきた着信には自動受話機能は働きません。

検索

Bluetooth 機器の登録 / 接続が行えます。(→ P21)

Bluetooth メモリ初期化

本機に登録された Bluetooth 機器の電話帳関連情報等をクリアできます。「Bluetooth 登録済み機器を全て削除します。よろしいですか?」と表示されたら **OK** をタッチしてください。クリアを開始します。


ご注意

クリア中は車のエンジンスイッチを OFF (ACC OFF) にしないでください。

Bluetooth 登録済み機器

本機とペアリング済みの Bluetooth 機器一覧を表示します。

：不要な Bluetooth 機器情報を削除できます。

：利用用途 (ハンズフリー / Bluetooth Audio) が変更できます。

自機情報

本機の自機名称を確認できます。

3 にタッチする

設定が終了します。

■ Bluetooth 機器を切りかえる / 接続する

Bluetooth 機器を複数台登録した場合、切りかえて使用できます。また、機器が登録されていて1台も接続されていないときは、この操作を行うことで接続することができます。

1 Bluetooth 機器のBluetooth機能をオンにする

2 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

3 、Bluetooth設定の順にタッチする

4 Bluetooth登録済み機器にタッチする

Bluetooth 接続機器一覧が表示されます。

5 切りかえたいまたは接続したいBluetooth機器名のとなりにある にタッチする

選択した Bluetooth 機器への接続を行います。

メモ

メニュー画面に表示される機器登録 / 削除からでも機器の切りかえや接続が行えます。

Wi-Fi® の設定

Apple CarPlay、Android Auto などの機能を使用するために Wi-Fi 接続します。

ご注意

- Wi-Fi ご使用時の通信料は、お客様のご負担となります。
- スマートフォンを接続する場合、スマートフォン側の通信を使用するため、スマートフォンの通信料がお客様のご負担となります。

Wi-Fi の設定

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 、Wi-Fi設定の順にタッチする

Wi-Fi	Wi-Fi 接続のオン/オフを切りかえます。 オンに切りかえると、Wi-Fi 接続が利用可能な状態になります。
自機情報	本機のネットワーク名称と MAC アドレスを表示します。
パスワード	パスワードを表示します (任意のパスワードを設定することはできません)。
パスワードリセット	新たにパスワードを再生成します。




3 にタッチする

設定が終了します。

ご注意

パーキングブレーキが解除されている場合、一部機能は操作できません。安全な場所に車を停めて、パーキングブレーキをかけてから操作してください。

メモ

- Wi-Fi 接続 (Apple CarPlay/Android Auto との接続) が失敗または意図せずに切断されると、ホーム画面に  が表示されます。
-  をタッチすると再起動するかどうかのメッセージが表示され、 をタッチすると本機が再起動した後に Wi-Fi の再接続 (Apple CarPlay/Android Auto との再接続) が行われます。

バックカメラ、リアモニター、ステアリングリモコンを 組み合わせたとき

本機では別売のバックカメラ、リアモニター、ステアリングリモコンを接続して利用することができます。利用には準備や設定が必要になります。

それぞれの準備や設定については次の内容をご覧ください。

バックカメラ	「バックカメラの準備」(→ P24)
リアモニター	「リアモニターの準備」(→ P24)
ステアリングリモコン	「ステアリングリモコンの設定」(→ P42)

■ バックカメラの準備

別売のバックカメラユニットを接続すると、車両後退時（車両のシフトレバーを R（リバース）の位置にしたとき）の後方映像を本機のディスプレイに表示できます。

あらかじめ、バック信号線の接続（→ P58）と、カメラ設定（バックカメラ入力、バックカメラ映像、駐車アシスト線表示、駐車アシスト線調整、画質調整）（→ P50）を行ってください。

ご注意

バックカメラの映像だけを見ての後退は絶対に行わないでください。後退するときには、直接目で後方を確認しながら後退を開始してください。バックカメラの映像は後方確認の補助手段としてご使用ください。

メモ

シフトレバーを R（リバース）以外の位置にすると、バックカメラの映像が消えます。

■ リアモニターの準備

本機に別売のリアモニターを接続すると、映像ソースを後部座席でも楽しめます。

リアモニターに表示できる映像は、以下のとおりです。

- ・ WebLink®
- ・ USB 機器内の動画
- ・ AUX

ご注意

リアモニターには、パーキングブレーキの ON / OFF に関係なく映像が表示されます。リアモニターは、走行中に運転者が映像を見ることができない位置に設置してください。

メモ

音声だけのソースを再生しているときは何も表示されません。

ラジオを聴く

ラジオの受信

- 1** **■** ボタンを押す
ホーム画面が表示されます。
- 2** **メニュー** にタッチする
- 3** **FM/AM** にタッチする
ラジオ画面が表示されます。

代表的な画面



使用する主なタッチキー

	プリセットチャンネルを選びます。 (→ P25) 長くタッチすると、現在の周波数をチャンネルに保存します。
	バンドを切りかえます。 タッチするごとに、バンドが切りかわります。(→ P25) 以降の説明ではこのキーはFM1とAM1を例に説明しています。
	BSM を実行します。(→ P26)
	周波数を順に切りかえます。
	現在の周波数から最も近い放送局を自動的に探します。

バンドの切りかえ

FMには3バンド、AMには2つのバンドがあり、各バンドに切りかえることができます。

- 1** **FM1** または **AM1** にタッチする
タッチするごとに、以下のように切りかわります。
FM1 → FM2 → FM3 → AM1 → AM2 → FM1
に戻る

放送局を選ぶ

放送局やチャンネルの選局は、マニュアル選局とプリセット選局があります。プリセット選局とは、本機に登録されている放送局(プリセットチャンネル)から選局する方法です。プリセットチャンネルは、バンドごとにそれぞれ6局まで登録できます。

■ マニュアル選局

- 1** **◀ / ▶** にタッチする
現在の周波数から最も近い放送局を自動的に探します。

メモ
◀ / ▶ にタッチすると、周波数を順に切りかえます。

■ プリセット選局

- 1** **1 ~ 6** にタッチする
選んだ放送局を受信します。

■ ラジオの放送局名を選ぶ

受信中の周波数に対して、放送局名を選んで表示させることができます(工場出荷時の状態では放送局名は表示されません)。一度、放送局名を設定した後も別の放送局名に変更できます。

- 1** **■** ボタンを押す
ホーム画面が表示されます。

- 2** **設定**、**システム設定** の順にタッチする

- 3** **FM/AM設定** にタッチする

4 放送局名選択にタッチする

5 放送局名一覧で、設定したい放送局名にタッチする

選んだ放送局名に変更されます。

メモ

- 本機に登録されていない放送局名は表示できません。
- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「データ無し」と表示されます。

放送局の登録

■ 自動でプリセットチャンネルを登録する

BSM は、受信状態の良い放送局を探して、プリセットチャンネルに自動的に登録する機能です。

1 FM1 または AM1 にタッチする

2 BSM にタッチする

BSM が始まります。

登録が完了すると、プリセットチャンネル 1 に登録された放送局を受信します。

メモ

- BSM とは、ベストステーションズメモリーの略です。
- 登録動作中にもう一度 BSM にタッチすると、BSM を中止できます。
- 受信状態の良い放送局が 6 局より少ないときは、以前に登録した放送局が残ることがあります。

■ 手動でプリセットチャンネルを登録する

バンドごとに 6 局ずつ登録できます。お好みの放送局をお好みの順番で登録できます。

1 FM1 または AM1 にタッチして、登録したいバンドを選ぶ

2 ◀/▶ にタッチして、登録したい放送局を受信する

3 お好みのプリセットチャンネルに長くタッチする

選んだ番号に周波数が表示され、登録が完了します。

交通情報 (TI)

高速道路などで放送されている交通情報 (TI) ラジオの周波数へ簡単な操作で切りかえることができます。

1 [] ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 [] メニューにタッチする

3 [] にタッチする

前回受信した周波数と同じ周波数の交通情報 (TI) を受信します。

メモ

- [] ボタンの長押しでも、交通情報 (TI) を受信します。受信をやめるときは、もう一度長押しします。

4 ◀/▶ にタッチして、周波数を切りかえる

1620 kHz ⇄ 1629 kHz

5 + / - (音量) ボタンを押して、音量を調節する

交通情報 (TI) を受信しているときに音量を調節すると、交通情報 (TI) 用の音量として設定できます。

Bluetooth 接続機器内の音楽を再生する

AV プロファイルに対応した Bluetooth Audio 機器と本機をワイヤレス接続することで、Bluetooth Audio 機器内の音楽データを本機で再生することができます。

AV プロファイルの種類やバージョンによって、操作できる機能や表示される内容は異なります。

ご注意

Bluetooth 機器を使うには、接続の設定が必要です。設定を行っていない場合は、「Bluetooth の接続と設定」(→ P21) をご覧になり、設定を行ってください。

AV プロファイルについて

AV プロファイルの種類	音声 伝送	選曲 操作	特殊 再生 操作	情報 表示
A2DP Ver1.0	○	×	×	×
A2DP+AVRCP Ver1.0	○	△	×	×
A2DP+AVRCP Ver1.3	○	△	△	△
A2DP+AVRCP Ver1.4	○	△	△	△
A2DP+AVRCP Ver1.5	○	△	△	△

○：できます。

△：Bluetooth Audio 機器により異なります。

×：できません。

- A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)とは、音声をワイヤレスで伝送するためのプロファイルです。
- AVRCP (Audio / Video Remote Control Profile)とは、音楽の選曲操作や情報表示するためのプロファイルです。

メモ

本機では同時に 2 台の Bluetooth 接続を行えますが、Bluetooth Audio 機器としては常に 1 台だけの再生になります。もう一台の機器を再生したい場合は、機器を切りかえてから再生してください。

再生を開始

Bluetooth Audio 機器を再生する

機器をお使いになるには、あらかじめ本機に Bluetooth Audio 機器を登録する必要があります。(→ P21)

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 Bluetooth Audio にタッチする

メモ

- 接続された機器によっては、再生が始まる場合と始まらない場合があります。始まらない場合は再生ボタンを押してください。
- Bluetooth Audio 機器が別の AV プロファイルで接続中は、接続できない場合があります。その場合は、Bluetooth Audio 機器の全ての AV プロファイルの接続を解除してから再度接続してください。



	再生中は一時停止をします。一時停止中は再生を開始します。
	タッチするとファイルを前後にスキップして、目的のファイルを再生します。
	タッチするごとに、リピート再生する範囲を切りかえます。
	タッチするごとに、ランダム再生と通常の再生を切りかえます。

A2DP + AVRCP 接続の場合でも、機種によっては操作できない場合や本書に記載された説明とは異なる動作をする場合があります。

メモ

- 自動的に再生が始まらない場合は、▶ にタッチしてください。
- ▶ にタッチしても再生が開始されない場合は、Bluetooth Audio 機器側で再生を開始させてください。
- A2DP+AVRCP Ver1.3 以降で接続した場合は、トラックタイトルやアーティスト名などの情報が表示されます (Bluetooth Audio 機器によっては表示されない場合もあります)。また、何らかの理由により再生が始まらない場合や接続が切断された場合は、一時的にそれらの情報が表示されなくなりますが、再生が始まると再表示されます。
- お使いになる Bluetooth Audio 機器によっては使用できない機能や制限事項があります。
- 接続した機器により、操作や再生範囲が異なる場合があります。
- リピート再生中にリピート再生の範囲を超える操作 (1 曲リピート中の選曲操作など) を行うと、リピート再生範囲が変更される場合があります。

■ Bluetooth Audio 機器の接続について

接続する Bluetooth Audio 機器を切りかえる

Bluetooth 設定 (→ P22) の Bluetooth 登録済み機器で Bluetooth Audio 機器を切りかえてください。

ご注意

切りかえたい機器の Bluetooth 機能が ON になっていないと、接続できません。

接続が切断された場合

ご注意

接続中の Bluetooth Audio 機器との接続が切れても、ACC を OFF/ON した場合は自動的に再接続を行います。

メモ

お使いになる電話機によっては、Bluetooth Audio を使用中は電話機がデータ通信を行えない場合があります。

Bluetooth Audio 機器が自動的に接続されない場合

ご注意

お使いの Bluetooth Audio 機器によっては、Bluetooth Audio 機器の登録が行われていても自動的に接続できないことがあります。その場合は、Bluetooth Audio 機器側から本機をサーチし、Bluetooth Audio 機器側での操作で本機に接続してください。

メモ

Bluetooth Audio 機器側の接続操作は、Bluetooth Audio 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

USB 機器内の音楽を再生する

接続した USB 機器に記録されている音楽の再生を行います。

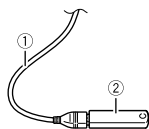
メモ

詳しいファイル対応については「再生可能なメディアとファイルについて」(→ P76)をご覧ください。

本機に USB 機器を取り付ける

1 USB機器を、USBケーブル（付属）に接続する

USB 機器を接続した時点で自動的に再生が始まります。



①	USB ケーブル（付属）
②	USB 機器

ご注意

USB ハブを使用しての接続には対応していません。

メモ

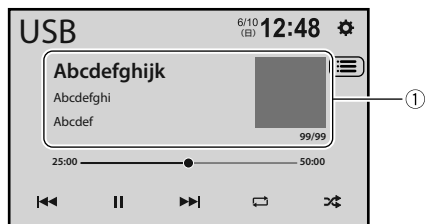
- USB 機器によっては、正しく動作しない場合があります。
- USB 機器を接続済みで、ラジオなど他のソースから USB 機器内の音楽再生に切りかえる場合は、**■** ボタンを押したあと **メニュー**、**USB** の順にタッチしてください。
- フォルダ順に再生されます。フォルダに再生可能な音楽ファイルがない場合は、次のフォルダを再生します。

本機から USB 機器を取り外す

1 車のエンジンスイッチをOFF (ACC をOFF) にする

2 USBケーブル（付属）からUSB機器を取り外す

代表的な画面（オーディオ）





メモ

タイムバーの●を指でドラッグして再生位置を指定することもできます。


使用する主なタッチキー


① 再生中の音楽ファイル情報を表示します。


 再生中は一時停止をします。
一時停止中は再生を開始します。

 ファイルを前後にスキップして、目的のファイルを再生します。

タッチするごとに、リピート再生する範囲を切りかえます。

 : 再生中の USB 機器全体の音楽ファイルをリピート再生します。

 : 再生中のフォルダー内の音楽ファイルをリピート再生します。


 : 再生中の音楽ファイルをリピート再生します。



選んだリピート再生の範囲内で、USB 機器内の曲をランダムに再生します。タッチするごとに、オフ⇄オンが切りかわります。

リピート範囲が のとき

USB 機器全体をランダムに再生します。

メモ



 ・音楽と画像が混在している USB 機器の場合は、現在選択中のデータ範囲でランダムに再生します。

・リピート範囲が  の場合、ランダム再生をオンにするとリピート再生の範囲が自動的に  に切りかわります。

リピート範囲が のとき

フォルダー内の曲をランダムに再生します。

ファイルリストを表示します。

  メモ

フォルダー名にタッチすると、そのフォルダー内の項目をリスト表示します。

USB 機器内の動画／静止画を再生する

接続した USB 機器に記録されている動画／静止画の再生を行います。JPEG 画像は、スライドショーで再生できます。

再生中の画面にタッチすると操作画面が表示されます。



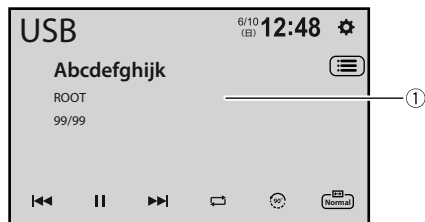
詳しいファイル対応については「再生可能なメディアとファイルについて」(→ P76) をご覧ください。

USB 機器の接続については「本機に USB 機器を取り付ける」(→ P29) をご覧ください。

代表的な画面 (動画)



代表的な画面 (静止画)



使用する主なタッチキー

①	タッチキーを非表示にします。 再度画面にタッチするとタッチキーが表示され、再生／一時停止などの操作ができるようになります。
	再生中は一時停止をします。
	一時停止中は再生を開始します。
②	再生位置をドラッグして指定します。
	ファイルを前後にスキップして、目的のファイルを再生します。

	タッチすること、リピート再生する範囲を切りかえます。 : 再生中の USB 機器全体の動画／静止画ファイルをリピート再生します。 : 再生中のフォルダー内の動画／静止画ファイルをリピート再生します。 : 再生中の動画ファイルをリピート再生します。
	ファイルリストを表示します。 メモ フォルダー名にタッチすると、そのフォルダー内の項目をリスト表示します。
	タッチすること、反時計回りに 90 度ずつ回転します。*
	画像の拡大方法を切りかえます。 (→ P51)

* 静止画のときのみ表示されます。

音楽を聴く／映像を見る／写真を見る

AUX(外部入力)を使って 映像／音声を再生する

市販のビデオカメラやポータブルオーディオプレーヤーなどの外部機器を接続して、映像や音声を再生します。

本機背面のAUX入力端子に、別売のAV入力用変換ケーブル(CD-VRM200)を差し込み、外部機器を接続します。(→P54)

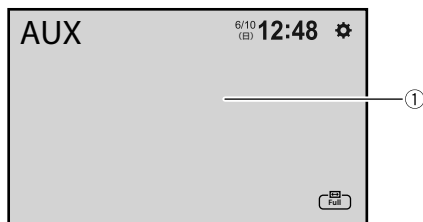
1 ■ ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。


2 メニューにタッチする

3 AUXにタッチする

代表的な画面



使用する主なタッチキー

①	タッチキーを非表示にします。 再度画面にタッチするとタッチキーが表示されます。
	画像の拡大方法を切りかえます。 (→P51)

電話を使う（ハンズフリー通話）

本機は Bluetooth 接続と USB 接続の 2 つの方法でハンズフリー通話ができます。

本書では、Bluetooth 接続した iPhone / スマートフォンなどの電話機を使って、ハンズフリー通話をする方法を説明しています。ハンズフリー通話を利用するにはあらかじめ Bluetooth 接続してください。（→ P21）

USB 接続をした iPhone / スマートフォンの場合、Apple CarPlay または Android Auto を利用して通話します。通話をする方法については Apple CarPlay または Android Auto のサポートサイトをご確認ください。

メモ

- ・本機は 5 つまでの機器を Bluetooth 接続の接続先として登録できます。
- ・登録した機器のうち、HFP に対応した電話機は同時に 2 台まで接続できます。

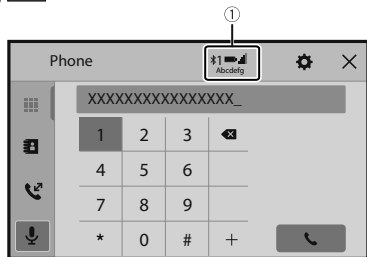
Phone メニュー


1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 にタッチする

3 にタッチする




- ① 次の項目が表示されます。
- ・接続されている電話機名
 - ・接続されている電話機の本機への登録番号（例： 1）


- ・電波状態
- ・電池残量


メモ

2 台の電話機を同時に接続している場合は、タッチして電話機を切りかえます。

 電話番号を入力して電話をかけます。（→ P33）

 電話帳から電話をかけます。（→ P34）

 発信履歴から電話をかけます。（→ P33）

 iPhone の音声認識操作ができます。（→ P40）

電話のかけかた

いろいろな方法で電話をかけることができます。

■ 電話番号を入力して電話をかける

電話番号を入力して電話をかけます。

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。


2 にタッチする

3 にタッチする

4 にタッチする

5 電話番号を入力し、 にタッチする

発信を開始します。

発信中  にタッチすると、発信を中止します。

■ 発信履歴から電話をかける

本機と接続中の履歴（発信、着信、不在着信）を表示し、電話をかけることができます。

1 ボタンを押す


ホーム画面が表示されます。

2 にタッチする

3 にタッチする

4 にタッチする

5 発信したい履歴を選んでタッチする

	発信履歴
	着信履歴
	不在着信履歴

発信を開始します。

メモ

- 発信履歴、着信履歴、不在着信履歴は、計 100 件まで保存されます。新しい履歴ができたときは、古い履歴から順に削除されます。
- 電話機の Bluetooth プロファイルの内、PBAP を有していることが前提です。PBAP があっても、発信履歴が表示できないことがあります。

■ 電話帳から電話をかける

電話機から転送した電話帳情報を使って電話をかけます。あらかじめ、電話機の電話帳を本機に転送してください。その際、一部の機器では電話機側の設定が必要になる場合があります。詳細は電話機側の取扱説明書をご確認ください。

メモ

- 電話帳は、登録した電話機ごとに、それぞれ 1 000 件ずつ保存できます。
- 電話帳は、本機に登録された電話機ごとに読み込まれます。接続する電話機を切りかえると、表示される電話帳の内容も切りかわります。
- 登録した電話機により電話帳情報の読み込みに制限がある場合があります。
- PBAP に対応していない電話機は、自動的に電話帳が転送されません。
- 電話帳内の件数、電話機の機種により、転送に時間がかかる場合があります（電話帳の転送中は、本機から発信することはできません）。
- 正しく電話帳が読み込めなかった場合は、以下を行ってから再度電話帳を本機に転送してください。
 - Bluetooth 機器を再度接続（ペアリング）する
 - 車のエンジンスイッチを OFF → ON（ACC OFF → ON）にする

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 メニューにタッチする

3 にタッチする

4 にタッチする

5 相手先を選んでタッチする

メモ

リスト右側に表示されたひらがなの部分を操作すると、頭文字でのサーチができます。






6 選んだ相手先に含まれる電話番号を選んでタッチする

発信を開始します。

通話中の操作

通話中は、通話中メニューが表示され、マイク感度の調整やプライベートモードのオン/オフ、電話を切るなどの操作ができます。



	電話を切ります。
	テンキー操作ができます。
 (オン)	プライベートモードのオン/オフを切りかえます。ハンズフリー通話を一時的にせずにスマートフォンで通話したいときはプライベートモードをオンにします。
 (オフ)	
	マイク感度を 3 段階で調整できます。

メモ

- 電話機側で操作することもできます。
- 本機に電話機を 2 台同時に接続している場合、1 台目のプライベートモードをオンにしていれば、1 台目の通話を維持したまま 2 台目にかかってきた電話もとることができます。

■ 2 台同時接続時の着信と受話

本機に電話機を HFP によって 2 台同時に接続している場合、1 台目が通話中（発信中、着信中、キャッチホン中も含め）に 2 台目に電話が掛かってくると、「二台目の着信」と表示されます。

2 台目への着信を受けるときの 1 台目の動作は、1 台目のプライベートモードのオン／オフによって異なります。

1 台目のプライベートモードがオンのとき	1 台目の通話を維持したまま、2 台目にかかってきた電話をとりま
1 台目のプライベートモードがオフのとき	1 台目の通話を終了し、2 台目にかかってきた電話をとりま

メモ

2 台目のプライベートモードをオンにして電話に出た場合も、1 台目の通話を維持したまま 2 台目にかかってきた電話をとることができます。

着信音量の調節

着信音の音量を調節できます。

1 着信中に、+ / -（音量）ボタンを押す

ハンズフリーエコー（残響音）の軽減

エコーは相手の声が車両スピーカーを通してマイクに入り込むことが原因で発生します。スピーカーからの声がマイクに入らないようにすることでエコーを軽減できます。また、電話回線状況、使用する電話機、通話相手の環境によりエコーが発生する場合もあります。

以下のような方法でエコーを軽減できる場合があります。

- 受話音量を小さくする
- お互いに一呼吸おいて話す

ただし、本機内部のエコーキャンセラーのしくみ上、完全にエコーをなくすことはできません。また、通話相手側が大きな声で話すとともに聞き取りにくくなります。

受話音量の調節

通話中の受話音量を調節できます。

1 通話中に、+ / -（音量）ボタンを押す

メモ

本体ボタンを押すと画面上に音量調整のタッチキーが表示されタッチキーでも受話音量を調節できます。

電話の受けかた

1 車のスピーカーから着信音の流れたら、 にタッチする

電話がつながり、通話ができます。

電話を切るときは、 にタッチします。

メモ

- 電話帳に登録されている電話番号と一致すると、電話帳で登録された名称が表示されます。
- 発信者番号通知サービスの利用状況によっては、相手の電話番号や名前は表示されません。
- 電話機を操作して電話に出ると、プライベートモードでの通話になる場合があります。
- 2 台同時接続時の着信と受話については「2 台同時接続時の着信と受話」(→ P35) を参照してください。

Apple CarPlay を利用する

本機に iPhone を接続して、Apple CarPlay を利用することによって、本機の画面からタッチ、スワイプ、ドラッグなどの操作ができます。

iPhone のアプリを本機に表示して操作したり、Siri による音声認識でも本機を操作することができます。

メモ

- iPhone やアプリの仕様によっては、本機の画面に表示できない場合があります。
- Apple CarPlay に対応している iPhone については、以下を確認してください。
<https://www.apple.com/jp/ios/carplay/>
- Apple CarPlay についての詳細は、Apple CarPlay サポートサイトをご確認ください。
- Apple CarPlay は Apple Inc. が提供するアプリケーションであり、各機能は予告なく変更する場合があります。

運転席位置の設定

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 システム設定の順にタッチする

3 運転席位置にタッチする

タッチすることにより、レフト⇄ライトが切りかわります。

レフト	左ハンドル車の場合選択します。
ライト	右ハンドル車の場合選択します。

3 Apple CarPlayを利用するかどうかのメッセージが表示されたらはいにタッチする

本機と iPhone が自動的に Wi-Fi 接続され Apple CarPlay の画面が表示されます。

メモ

- Apple CarPlay の接続が完了すると、 ボタンを押して Siri 機能を使用することができます。
- 本機が Bluetooth で接続されていたときは、Apple CarPlay の接続が完了すると Bluetooth 接続は終了します。
- 一度ワイヤレス接続の設定を行った場合でも、iPhone の Bluetooth 機能をオフにすると、ワイヤレスでの再接続ができません。

iPhone の接続

■ USB で接続する

1 本機に iPhone を USB で接続する (→P64)

2 ホーム画面のお気に入りソース / アプリエリアにある Apple CarPlay アプリのアイコン にタッチする

Apple CarPlay の画面が表示されます。

■ ワイヤレスで接続する

1 iPhone の Wi-Fi 機能と Bluetooth 機能をオンにする

ワイヤレス接続は Wi-Fi 機能を使って通信するため、本機の Wi-Fi 設定 (→P23) がオンになっていることをご確認ください (工場出荷時はオンになっています)。

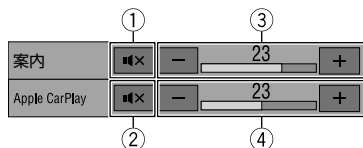
2 本機と iPhone を Bluetooth で接続する (→P21)

音量調節

Apple CarPlay を使用している場合は、メインの音量とは別に、Siri (接続した iPhone で利用可能な場合) またはガイド音量を調節できます。

1 Apple CarPlay 画面を表示中に、+ / - (音量) ボタンを押す

音量設定メニューが表示されます。



- ① ガイド音声をミュートします。
- ② メイン音声をミュートします。
- ③ または にタッチしてガイド音声の音量を調節します。
- ④ または にタッチしてメイン音声の音量を調節します。メイン音量は + / - (音量) ボタンでも調節できます。

メモ

- 音量設定メニューの表示が消えたときは、+ / - (音量) ボタンを押すと再度表示されます。
- Enhanced Siri を使用している場合、ミュート機能は使用できません。

Android Auto を利用する

本機に Android Auto 対応スマートフォンを接続して、Android Auto を利用することによって、本機の画面からタッチ、スワイプ、ドラッグなどの操作ができます。

スマートフォンのアプリを本機に表示して操作したり、音声認識でも本機を操作することができます。Android Auto を使用する場合は、スマートフォンへの専用アプリのインストールが必要です。

メモ

- スマートフォンやアプリの仕様によっては、本機の画面に表示できない場合があります。
- 車のディスプレイで Android Auto をワイヤレスで使用するには、互換性のある Android スマートフォンとデータ通信契約が必要です。互換性のあるスマートフォンは g.co/androidauto/requirements で確認してください。
- Android 10.0 以降のスマートフォンでは、専用アプリのインストールは必要ありません。
- Android Auto についての詳細は、Android Auto サポートサイトをご確認ください。
- Android Auto は Google Inc. が提供するアプリケーションであり、各機能は予告なく変更する場合があります。

運転席位置の設定

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 、システム設定の順にタッチする

3 運転席位置にタッチする

タッチすることにより、レフト⇄ライトが切りかわります。

レフト	左ハンドル車の場合選択します。
ライト	右ハンドル車の場合選択します。

スマートフォンの接続

■ USB で接続する

1 本機にスマートフォンをUSBで接続する (→P64)

2 ホーム画面のお気に入りソース／アプリエリアにある Android Auto アプリのアイコン にタッチする

Android Auto の画面が表示されます。

■ ワイヤレスで接続する

1 スマートフォンのWi-Fi機能とBluetooth機能をオンにする


ワイヤレス接続は Wi-Fi 機能を使って通信するため、本機の Wi-Fi 設定 (→ P23) がオンになっていることをご確認ください (工場出荷時はオンになっています)。

2 本機とスマートフォンをBluetoothで接続する (→P21)

3 Android Autoを開始するかどうかのメッセージが表示されたら開始にタッチする

本機とスマートフォンが自動的に Wi-Fi 接続され Android Auto の画面が表示されます。

メモ

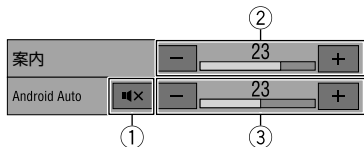
- Android Auto の接続が完了すると、 ボタンを押して音声認識を使用することができます。
- スマートフォン以外の電話機で通話中に Android Auto の接続が完了すると、通話後に Bluetooth 接続がスマートフォンに切りかわります。
- Android Auto の接続が完了すると、A2DP + AVRCP 接続は切断されます。
- Android Auto の接続が完了すると、他のスマートフォンの HFP 接続は切断されます。
- 一度ワイヤレス接続の設定を行った場合でも、スマートフォンの Bluetooth 機能をオフにすると、ワイヤレスでの再接続ができません。

音量調節

Android Auto を使用している場合は、音楽やラジオ音声などのメインの音量とは別に、音声認識またはガイド音量を調整できます。

1 Android Auto画面を表示中に、 + / - (音量) ボタンを押す

音量設定メニューが表示されます。



- | | |
|---|--|
| ① | メインの音声をミュートします。 |
| ② | ■ または ■ にタッチしてガイド音声の音量を調節します。 |
| ③ | ■ または ■ にタッチしてメイン音声の音量を調節します。メイン音量は+ / - (音量) ボタンでも調節できます。 |

メモ

音量設定メニューの表示が消えたときは、+ / - (音量) ボタンを押すと再度表示されます。

本機で iPhone / スマートフォンを操作する (WebLink®)

接続している iPhone / スマートフォンの画面を本機とミラーリングすることができます。また、WebLink® 互換のアプリケーションを使用することができます。

YouTube などの動画を本機の画面で楽しむこともできます。

WebLink® を使用するには、WebLink® Host アプリを iPhone / スマートフォンにインストールする必要があります。WebLink® Host アプリについて詳しくは、以下を確認してください。

<https://helloweblink.com/>

メモ

- 最新の OS サポート情報については、HelloWebLink.com をご覧ください。
- DRM など、著作権で保護されたファイルは再生できません。

ご注意

- WebLink® でアクセスしたコンテンツや機能については、アプリやコンテンツの提供者の責任であり、この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- WebLink® でアクセスした当社以外のコンテンツやサービスの提供は予告なく変更または中止されることがあります。
- 運転中は本機で利用可能なコンテンツと機能が制限されます。
- WebLink® の音量が小さい場合は、iPhone / スマートフォン側の音量を上げてください。本機側の音量を上げると、AV ソースを切りかえたときに大音量になる場合があります。

WebLink® を利用する

1 iPhone / スマートフォンに WebLink® Host アプリをインストールする

2 iPhone / スマートフォンで WebLink® Host アプリの利用規約に合意する

3 iPhone / スマートフォンを本機に USB で接続する

iPhone を接続する場合 (→ P64)

スマートフォンを接続する場合 (→ P64)

USB 接続が完了すると、別の AV ソース画面が表示されますが、そのまま手順 4 に進んでください。

4 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

5 にタッチする

6 本機の画面で操作する

WebLink® アプリの起動後、アプリのアイコンをタッチすると操作画面が表示されます。



WebLink® ソース画面のメインメニューを表示します。

メモ

- 本機から音が聞こえない場合は、「Bluetooth の接続と設定」(→ P21) をご覧になり、本機との Bluetooth 接続を確認してください。
- 2 台同時に HFP 接続しているとき、3 台目の端末で WebLink® アプリを起動すると先に接続していた 2 台のうち最初に接続していた方の HFP が切断されます。
- WebLink® アプリを起動すると A2DP + AVRCP 接続は WebLink® アプリを起動した端末に切りかわります。

■ WebLink® Cast 機能

WebLink® Cast 機能を使用すると、本機の画面に映し出した iPhone / スマートフォンの画面を直接操作することができます。

1 ショートカットの にタッチする (→ P19)

iPhone / スマートフォンの音声認識機能を使う

iPhone / スマートフォンが Bluetooth または USB 経由で本機に接続されているときに  ボタンを押すと、音声認識操作ができます。(→ P14)

iPhone の音声認識機能を使う (Siri)

本機を使って iPhone の音声認識による操作ができます。

iPhone に iOS 6.1 以上が搭載され、iPhone で Siri の設定を ON にしている場合は、Siri アイズフリー (音声認識) 機能が使えます。

Siri アイズフリー以外の場合は、音声コントロールとして動作します。

メモ

- ・音声認識で操作できる機能は、iPhone の iOS のバージョンによって異なります。
- ・音声認識機能については、iPhone の取扱説明書をご覧ください。
- ・はっきりと、ゆっくり発声してください。

1 iPhone を本機に接続する

Bluetooth で接続する場合 (→ P21)

USB で接続する場合 (→ P64)

2 ボタンを押す

iPhone の音声認識操作ができます。

3 マイクに向かって話す

発声した内容に関連するアクションや情報表示をします。

■ Phone メニューからの音声認識操作

Phone メニュー (→ P33) も音声認識操作ができます。

あらかじめ Bluetooth 接続してください。(→ P21)

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 にタッチする




3 にタッチする

4 にタッチする

5 マイクに向かって話す

発声した内容に関連するアクションや情報表示をします。

メモ

- ・iPhone に iOS 6.1 以上が搭載され、iPhone で Siri 機能が ON に設定されている場合は、画面には「音声認識 / 応答中」と表示されます。「音声認識 / 応答中」以外の場合は「音声コントロール」と表示されます。
- ・終了するには、 にタッチして音声認識ウィンドウを閉じるか、 にタッチします。再度  にタッチすると音声認識を再開します。

■ 2 台同時接続時の音声認識操作

音声認識操作する電話機を切りかえて操作することができます (音声認識操作での切りかえを行った場合は、Phone メニューでの操作対象になる電話機も切りかわります)。あらかじめ 2 台を Bluetooth 接続してください。(→ P21)

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 にタッチする

3 にタッチする

4 にタッチする

5 操作したい電話機のキーにタッチする

音声認識を始めるタッチキーに出ている番号は登録された機器の番号です。(→ P21)

操作したい電話機の音声認識操作ができます。

スマートフォンの音声認識機能を使う

本機を使ってスマートフォンの音声認識操作ができます。

スマートフォンの音声認識機能を使うには、Android Auto の画面を表示する必要があります。(→ P37)

1 Android Auto 画面を表示中に、

ボタンを押す

スマートフォンの音声認識操作ができます。

2 マイクに向かって話す

発声した内容に関連するアクションや情報表示をします。

各種設定をする

設定画面では、各種の設定をすることができます。

ご注意

パーキングブレーキが解除されている場合、一部機能は操作できません。安全な場所に車を停めてパーキングブレーキをかけてから操作してください。

設定画面の表示

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 にタッチする

3 設定したい項目にタッチする

システム設定 (→ P41)

表示設定 (→ P45)

オーディオ設定 (→ P46)

Wi-Fi 設定 (→ P23)

Bluetooth 設定 (→ P22)

カメラ設定 (→ P50)

スマートフォン接続設定 (→ P51)

4 にタッチする

設定が終了します。

システム設定

操作音など、システムに関する設定を行います。

日時設定 (→ P42)

操作音 (→ P42)

ステアリングリモコン設定 (→ P42)

デモモード (→ P43)

運転席位置 (→ P43)

FM/AM 設定 (→ P43)

ACC ON 設定 (→ P43)

ディマー設定 (→ P43)、(→ P44)

画質調整 (→ P44)

設定初期化 (→ P44)

接続状態 (→ P44)

システム情報 (→ P45)

ファームウェアバージョンアップ (→ P45)

ライセンス (→ P45)

■時計の設定

時刻と時計の表示を設定します。



時刻を表示させるには GPS アンテナの接続が必要です。

1 システム設定 (→P41)の**日時設定**にタッチする

2 設定を選んでタッチする

日/月/年	左から日、月、年 (西暦) の順に表示します。
月/日/年	左から月、日、年 (西暦) の順に表示します。
年/月/日	左から年 (西暦)、月、日の順に表示します。

3 設定を選んでタッチする

12H	12 時間表示
24H	24 時間表示

4 タイムゾーンの**+**/**-**にタッチする

調節できる範囲は、UTC-12.0h ~ UTC+14.0h (0.25h 単位) です。



お住まいの地域が日本の場合は UTC+9 を設定してください。

■操作音の設定

操作音を出すか、出さないかを設定できます。

1 システム設定 (→P41)の**操作音**にタッチする

タッチすることにより、オン⇄オフが切りかわります。

■ステアリングリモコンの設定

別売のステアリングリモコンアダプターまたはステアリングリモコンケーブルを使用する場合に設定します。



対応ケーブルについては詳しくは、弊社ホームページでご確認ください。

(https://jpn.pioneer/ja/carrozzeria/support/steering_remotecontrol/)

1 システム設定 (→P41)の**ステアリングリモコン設定**にタッチする

アダプター	別売のステアリングリモコンアダプターを使用する場合に選択します。
学習	別売のステアリングリモコンケーブルを使用する場合に選択します。

アダプターを選択した場合、「設定中です・・・ステアリングリモコンを押さないでください」のメッセージが表示された後に「ステアリングリモコンの設定が完了しました。」とメッセージが表示されます。手順 4 に進みます。

学習を選択した場合は、「設定中です・・・ステアリングリモコンを押さないでください」のメッセージが表示された後に車両のステアリングスイッチ登録画面が表示されます。手順 2 に進みます。

2 車両のステアリングスイッチに登録する機能にタッチする

	AV ソースを切りかえます。
	消音します。
	音量を大きくします。
	音量を小さくします。
	▲/▼/▶/◀の操作をします。
	バンドを切りかえます。
	音声操作をします。
	通話中の電話を切ります。
	受話の操作をします。

3 機能を登録する車両のステアリングスイッチのキーを長く押し続けて離す

指定した機能が登録されます。
他の機能を登録する場合は、手順 2～3 を繰り返します。
ステアリングリモコンを操作するメッセージが表示されたら、メッセージにしたがって操作してください。

4 OK にタッチする

設定が終了します。

■ デモモードの設定

デモを表示するか、表示しないかを設定します。

1 システム設定 (→P41) のデモモードにタッチする

タッチすることにより、オフ⇄オンが切りかわります。通常はオフにします。

ご注意

- 運転中のデモモードは、前方不注意などの原因となる場合があります。運転中はデモモードを解除するか、設定をオフにしてください。
- 車のエンジンを止めた状態 (ACC オン) で、デモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

■ 運転席位置の設定

1 ボタンを押す

ホーム画面が表示されます。

2 、システム設定の順にタッチする

3 運転席位置 にタッチする

タッチすることにより、レフト⇄ライトが切りかわります。

レフト	左ハンドル車の場合選択します。
ライト	右ハンドル車の場合選択します。

メモ

運転席位置の設定によってホーム画面上のショートカット (→P19) の位置が左右に切りかわります。

■ ラジオの放送局名を選ぶ

1 システム設定 (→P41) の FM/AM 設定 → 放送局名選択 にタッチする

2 放送局名一覧で、設定したい放送局名にタッチする

選んだ放送局名に変更されます。

メモ

- 本機に登録されていない放送局名は表示できません。
- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「データ無し」と表示されます。

■ Power OFF モードの起動時設定

Power OFFモードのままエンジンスイッチをオフ (ACC オフ) に切りかえたとき、次回起動時に Power OFFモードを維持するか解除するかを設定します。

1 システム設定 (→P41) の ACC ON 設定 にタッチする

2 設定を選んでタッチする

前回のソース	Power OFFモードにする直前に選択していたソースで起動します。
Power Off	Power OFFモードで起動します。

■ 画面の明るさ切替設定

1 システム設定 (→P41) の ディマー設定 → 明るさ切替 にタッチする

タッチすることにより、オート⇄マニュアルが切りかわります。

オート	車のライトに連動して明るさを自動で切りかえます。
マニュアル	明るさを手動で昼用または夜用に切りかえます。

■ 画面の明るさを手動で切りかえる

「明るさ切替」(→P43)の設定が「マニュアル」の場合、画面の明るさを手動で昼用または夜用に切りかえることができます。

1 システム設定 (→P41)の**ディマー設定** →**昼/夜切替**にタッチする

タッチするごとに、昼 ⇄ 夜 が切りかわります。

昼	昼用の明るさにします。
夜	夜用の明るさにします。

■ 画質を調整する

各ソースおよびバックカメラ画像の画質を調整します。

1 システム設定 (→P41)の**画質調整**に タッチする

黒の濃さ	明暗を調整します。 - 10 (明) ~ 10 (暗) の範囲で調整できます。
コントラスト	白黒の差を調整します。 - 10 (差が減少) ~ 10 (差が増大) の範囲で調整できます。
色の濃さ	濃淡を調整します。 - 10 (淡) ~ 10 (濃) の範囲で調整できます。
色合い	赤色と緑色のバランスを調整します。 - 10 (赤) ~ 10 (緑) の範囲で調整できます。
明るさ	周囲の明るさに合わせた明るさの調整をします。 0 (暗) ~ 8 (明) の範囲で調整できます。
色温度	暖色系と寒色系のバランスを調整します。 - 3 (暖色系) ~ 3 (寒色系) の範囲で調整できます。

❗注意

- ・カメラによっては調整ができない場合があります。
- ・運転中は画質調整の操作はできません。

📌メモ

- ・▲/▼にタッチすると、調整項目が切りかわります。
- ・明るさは、車のライトのオン/オフに応じ、個別に設定ができます。

■ 設定の初期化

❗注意

- ・一度消去したデータは元に戻せません。十分注意してから操作してください。
- ・必要な情報は事前に控えておいてください。

1 システム設定 (→P41)の**設定初期化**に タッチする

2 **OK**にタッチする

本機が再起動後、工場出荷時の状態に戻り、初期起動時の設定画面 (→P15) が表示されます。

■ ケーブルやリード線の接続及び取り付けの確認

ケーブルやリード線が本機と車両に正しく接続されているか、取り付けの位置が正しいかを確認できます。

1 システム設定 (→P41)の**接続状態**に タッチする

GPS アンテナ	GPS アンテナの接続状態と受信感度を表示します。 OK : 正しく接続されている 未接続 : 接続が正しくない
測位状態	GPS の測位状態 (2 次元測位、3 次元測位、未測位)、または測位に使用される衛星の数 (オレンジ)、および信号を受信した衛星の数 (黄色) を表示します。6 つ以上の衛星からの信号を受信した場合、現在の位置を測定できます。
取付位置	本機が正しく設置されているかを表示します。 OK : 正しく設置されている 未接続 : 正しく設置されていない
パルス数	本機で検出した速度パルス値を表示します。
バック信号	車のシフトレバーを「R」(リバース位置) にすると、信号が High または Low に切りかわります。表示される信号は、車種によって異なります。

📌メモ

GPS の測位状態が悪い場合は、GPS アンテナの設置位置を変更してください。

■ 本機のシステム情報を見る

本機のソフトウェアのバージョンなどのシステム情報を確認することができます。

1 システム設定 (→P41)のシステム情報にタッチする

■ 本機のファームウェアを更新する

USB メモリーを接続して、本機のファームウェアのバージョンを更新できます。

ファームウェアについての情報や更新についての詳細は、パイオニアのホームページをご覧ください。

ご注意

- ・更新作業中は、エンジンスイッチを OFF にしないでください。
- ・走行中は操作できません。必ず、パーキングブレーキをかけてから操作をしてください。

1 ファームウェアのバージョンアップファイルが格納されたUSBメモリーを、USBケーブル (付属) を使って接続する (→P29)

2 システム設定 (→P41)のファームウェアバージョンアップにタッチする

3 Update にタッチする

ファームウェアの更新を開始します。

更新完了のメッセージが表示されると本機は再起動します。

■ 本機のライセンス

本機に使われているソフトウェアのライセンスを確認できます。

1 システム設定 (→P41)のライセンスにタッチする

表示設定

壁紙やイルミネーションの設定など、画面のカスタマイズを行います。

イルミネーション (→P45)

壁紙 (→P45)

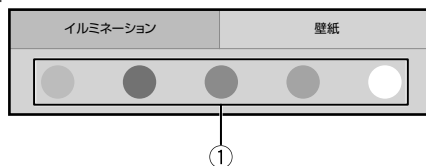
オープニング画面設定 (→P46)

■ ボタンのイルミネーションを設定する

「各部の名称とはたらき」(→P14) で示す①～⑤のボタンのイルミネーションを5種類のプリセットカラーから設定することができます。

1 表示設定 (→P41)のイルミネーションにタッチする

2 色を選んでタッチする



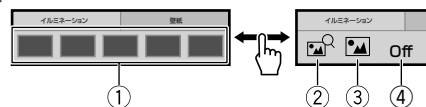
- ① 本機ですでに設定されている色から選択します。

■ 壁紙を設定する

プリセットの壁紙もしくはオリジナル画像をUSB機器から取り込んで、壁紙として設定することができます。

1 表示設定 (→P41)の壁紙にタッチする

2 設定を選んでタッチする



- ① 本機にすでに設定されているプリセットの壁紙を選択します。
- ② 接続したUSB機器内のJPEG画像を取り込みます。
メモ
取り込んだ画像によっては、画面上の文字が見えづらくなることがあります。
- ③ USB機器から取り込んだJPEG画像を表示します。
- ④ 非表示にします。

■ オープニング画面を設定する

USB 機器を接続して、本機のオープニング画面をお好みの画像に変更できます。

1 表示設定 (→P41)のオープニング画面設定にタッチする

2 設定を選んでタッチする

読み込み	USB 機器からオープニング画面の画像を読み込みます。
初期化	オープニング画面の画像を初期設定に戻します。

メッセージに従い操作します。

ご注意

- USB 機器から読み込むことのできるファイルは、以下の条件を満たす必要があります。
 - 形式：BMP または JPEG
 - ファイルサイズ：6 MB 以下
 - 画像サイズ (px)：800 × 480
- 画像ファイルは USB 機器のルートフォルダーに保存しておく必要があります。
- USB 機器に複数の画像ファイルが保存されている場合は、お好みの画像を読み込まないことがあります。USB 機器には変更する画像のみ保存してください。

オーディオ設定

音量バランスやイコライザーなど、オーディオに関する設定を行います。

フェーダー／バランス (→ P46)

ラウドネス (→ P46)

スピーカー出力レベル (→ P46)

リスニングポジション (→ P47)

バランス (→ P46)

タイムアライメント (→ P47)

イコライザー (→ P48)

サブウーファー (→ P48)

カットオフ (→ P48)

パスブースト (→ P49)

ミュート設定 (→ P49)

サブウーファー設定 (→ P50)

サブウーファーを設定できます (カットオフと同じ画面を表示します)。

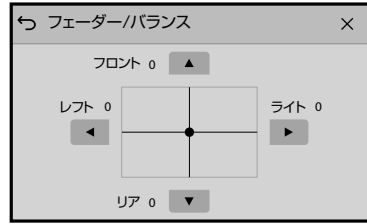
■ 前後左右の音量バランスを調節する

ご注意

スピーカーモードがネットワークモードに設定されているときは前後のバランス調整はできません。手順 1 では **バランス** のタッチキーになります。

1 オーディオ設定 (→P41)のフェーダー／バランスにタッチする

2 ▲／▼／◀／▶にタッチする

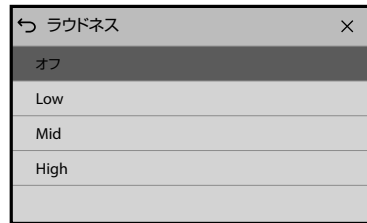


フロント、リア、レフト、ライトのバランスを調節できます。調節できる範囲は、0～25です。

■ 小さな音を聞きやすくする

1 オーディオ設定 (→P41)のラウドネスにタッチする

2 効果を選んでタッチする



オフ / **Low** (小) / **Mid** (中) / **High** (大)

■ スピーカーの出力レベルを調整する

スピーカー出力レベルの設定は、リスニングポジションの設定と、各スピーカーの設定があります。リスニングポジションごとに、スピーカーの出力レベルを設定できます。

メモ

サブウーファーの出力レベルはサブウーファーのオン／オフの設定がオンの場合に設定できます。

1 オーディオ設定 (→P41)のスピーカー出力レベルにタッチする

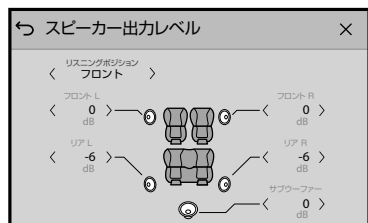
2 画面左上のリスニングポジションの◀または▶にタッチしてリスニングポジションを選ぶ

フロントL、フロントR、フロント、All、オフから選択できます。

ご注意

スピーカーモードがネットワークモードに設定されているときはAllは選択できません。

3 調整したいスピーカーの◀/▶にタッチする



スピーカーモードによって調整するスピーカーが異なります。

スタンダードモード	フロントL、フロントR リアL、リアR サブウーファー
ネットワークモード	ハイL、ハイR ミッドL、ミッドR サブウーファー

調整できる範囲は、- 24 dB ~ 10 dB です。

■ リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

1 オーディオ設定 (→P41)のリスニングポジションにタッチする

2 リスニングポジションを選んでタッチする



フロント	同乗者が助手席にいるとき
フロントL	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
フロントR	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
All	同乗者が後部座席にいるとき
オフ	設定をオフにするとき

ご注意

スピーカーモードがネットワークモードに設定されているときはAllは選択できません。

メモ

- リスニングポジションの設定が変更されると、スピーカー出力レベルの設定も変更されます。
- リスニングポジションの設定を変更するとタイムアライメントの設定も変更されます。

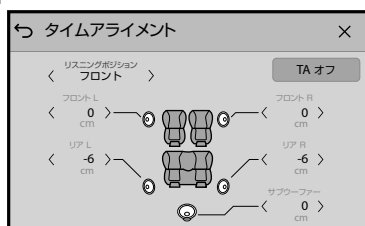
■ タイムアライメントを調整する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。

1 オーディオ設定 (→P41)の

タイムアライメントにタッチする

2 タッチしてTAオンに切りかえる



タッチすることにより、TA オフ⇔TA オンが切りかわります。

3 画面左上のリスニングポジションの◀または▶にタッチして、フロントLまたはフロントRを選ぶ

タイムアライメントを調整するには、フロントLまたはフロントRを選択してください。

メモ

リスニングポジションの設定が変更されると、スピーカー出力レベルの設定も変更されます。

4 調整したいスピーカーの◀/▶にタッチする

タッチすることにより、スピーカーの距離が0 cm ~ 490 cmの間で、1.4 cm単位で切りかわります。

5 他のスピーカーを調整したい場合は、手順4を繰り返す

ご注意

- 他のオーディオメニューの設定項目において、そのスピーカーが有効にされていないときは調整できません。
- オーディオ設定メニューでサブウーファースのオン/オフの設定がオフに設定されているときは、サブウーファースは調整できません。(→P48)

■ イコライザーを使う**音質を手軽に調整する**

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調整できます。

ホーム画面上のショートカットからも設定できます。以下からお好みのカーブを選びます。

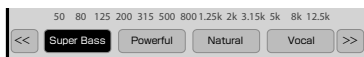
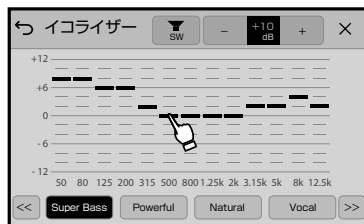
Super Bass	低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。
Powerful	低域と高域が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。
Natural	自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。
Vocal	中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。
Flat	音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切りかえて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
Custom	お好みに合わせて調整できます。すべてのソースに共通のイコライザーカーブとして登録されます。

イコライザーカーブを細かく調整する

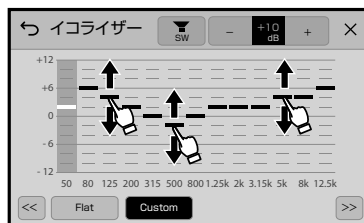
お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数ごとにレベルを調整できます。

メモ

Custom以外のカーブを選んでいるときに調整すると、自動的に Custom に登録されます。

1 オーディオ設定 (→P41)のイコライザーにタッチする**2 調整したいカーブ Super Bass ~ Flat にタッチする****3 周波数のバーにタッチする**

タッチすると自動的に Custom に切りかわります。

4 各周波数のバーを上下に動かして調整する

調節できる範囲は、+ 12 dB ~ - 12 dB (2 dB / ステップ) です。

メモ

サブウーファースをオンに設定している場合は、/にタッチしてサブウーファースの出力レベルを調整できます。

■ サブウーファースのオン/オフを設定する

サブウーファースを組み合わせる場合はオンに切りかえてください。

1 オーディオ設定 (→P41)のサブウーファースにタッチする

タッチすることにより、オン ⇄ オフが切りかわります。

メモ

再生するコンテンツの音声フォーマットによってはサブウーファース出力がされない場合があります。

■ カットオフ周波数、スロープを設定する

カットする起点となる周波数を選択します。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。またそのカットの緩急を傾斜(スロープ)で設定します。

ある周波数から下の音域をカットし、上の音域を出力するフィルターをハイパスフィルター(HPF)と呼び、逆にある周波数から上の音域をカットし、下の音域を出力するフィルターをローパスフィルター(LPF)と呼びます。カットオフのサブウーファース設定はサブウーファースの設定をオンにしている時に可能になります。

1 オーディオ設定 (→P41)の カットオフにタッチする

2 にタッチする

タッチすることにより、調整するスピーカーが以下のように切りかわります。

スピーカーモードがスタンダードモードの場合

サブウーファー⇔フロント⇔リア

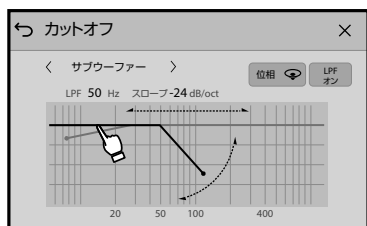
フロント	HPF が設定できます。
リア	HPF が設定できます。
サブウーファー	LPF が設定できます。

スピーカーモードがネットワークモードの場合

サブウーファー⇔Mid HPF⇔Mid LPF⇔High

High	HPF が設定できます。
Mid	HPF と LPF が設定できます。
サブウーファー	LPF が設定できます。

3 周波数カーブをドラッグする



各スピーカーのカットオフ周波数が調整できます。

4 周波数カーブの下端のポイントをドラッグする

各スピーカーのスロープを設定します。傾きが急なほどその音域のカットが鋭くなります。



位相を切りかえる

サブウーファー (スピーカーモードがスタンダードモードの場合)、または High / Mid / サブウーファー (スピーカーモードがネットワークモードの場合) の位相を切りかえることができます。

フロント/リアまたは High / Mid スピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分も含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転 (干渉) し、打ち消し合い音量が上がらないことがあります。このような場合は、位相を正相または逆相に切りかえてみて、聴感上で良いと感じる方に設定してください。

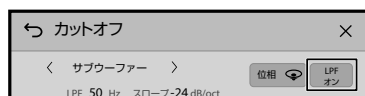
1 位相 にタッチして切りかえる



	フロント/リアまたは High / Mid スピーカーと同時に音が出力されます。
	フロント/リアまたは High / Mid スピーカーとタイミングをずらして音が出力されます。

LPF / HPF のオン/オフ

1 LPF / HPF にタッチして、オンまたはオフを切りかえる



タッチすることにより、**LPF オン** ⇔ **LPF オフ** / **HPF オン** ⇔ **HPF オフ** が切りかわります。

■ 低い音を強調する

1 オーディオ設定 (→P41)の バスブーストにタッチする

2 レベルを選んでタッチする

バスブースターのレベルを調節できます。調節できる範囲は、**0 ~ +6** です。

メモ

スピーカーモードがスタンダードモードのときに設定することができます。

■ ミュートを設定する

AV、iPhone、スマートフォンのガイドンス再生時のソース音量を設定します。

1 オーディオ設定 (→P41)の ミュート設定にタッチする

2 ソース音量を選んでタッチする

ATT	現在の音量より 10 dB 低くなります。
ミュート	消音します。
オフ	現在の音量を変更しません。

■ サブウーファーを設定する

サブウーファーを設定できます（カットオフと同じ画面を表示します）。

「カットオフ周波数、スロープを設定する」（→P48）を参照ください。

1 オーディオ設定（→P41）のサブウーファー設定にタッチする

カメラ設定

バックカメラ（別売）に関する設定をします。

バックカメラ入力（→P50）

バックカメラ映像（→P50）

駐車アシスト線表示（→P50）

駐車アシスト線調整（→P50）

画質調整（→P50）

■ バックカメラの入力を設定する

バックカメラの接続の有無を設定します。（→P54）

1 カメラ設定（→P41）のバックカメラ入力にタッチする

タッチするごとに、オン⇄オフが切りかわります。

■ バックカメラの表示方法を設定する

バックカメラの表示方法を通常または左右反転に設定できます。

1 カメラ設定（→P41）のバックカメラ映像にタッチする

2 設定を選んでタッチする

通常	バックカメラの映像をそのまま表示します。
左右反転	バックカメラの映像を反転して表示します。

■ 駐車アシスト線の表示を設定する

バックカメラの表示に、駐車アシスト線を表示するかどうかを設定できます。

駐車アシスト線を表示したい場合はオンに設定します。

1 カメラ設定（→P41）の駐車アシスト線表示にタッチする

タッチするごとに、オン⇄オフが切りかわります。

■ 駐車アシスト線を調整する

バックカメラに表示する駐車アシスト線を調整できます。

1 カメラ設定（→P41）の駐車アシスト線調整にタッチする

2 ◀/▶/▲/▼にタッチして調整する

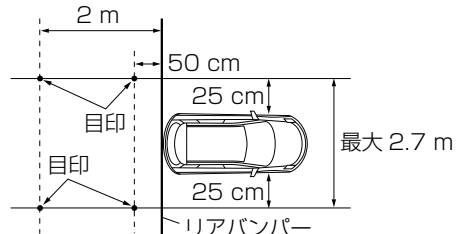
リセットにタッチすると、設定が初期値に戻ります。

ご注意

- 安全な場所に車を停めてパーキングブレーキをかけてから操作してください。
- 車から降りて駐車した車の位置を確認する場合は、必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。

メモ

- バックカメラ画像に表示される駐車アシスト線は、実際の車幅と距離と異なる場合があります。駐車アシスト線は直線で表示されます。
- 夜間や暗い場所などでは、バックカメラに表示される画像が見にくい場合があります。
- 駐車アシスト線を設定する前に、梱包テープなどで以下の位置に目印をつけると設定しやすくなります。
- ガイドラインが画面の端になり調整できないことがあります。バックカメラはできるだけ車の中央、低過ぎない位置に取り付けてください。



■ 画質を調整する

バックカメラ画像の画質を調整します。

「画質を調整する」（→P44）を参照ください。

1 カメラ設定（→P41）の画質調整にタッチする

スマートフォン接続設定

Android Autoを利用する場合はオンに設定します。

1 スマートフォン接続設定 (→P41)の Android Autoにタッチする

タッチすることにより、オン⇄オフが切りかわります。



オフにした場合、Android Autoのアイコンはホーム画面に表示されません。

ワイド画面の拡大方法の変更

画像（動画を含む）の拡大方法を切りかえることができます。

1 にタッチする

2 切りかえたいモードにタッチする

Full (フル)	画面いっぱいになるように表示します。 で注意 ・画像によっては、全画面表示にならない場合があります。
Zoom (ズーム)	画像を上下に拡大して表示します。
Normal (ノーマル)	そのまま表示します。
Trimming (トリミング)	縦横比率を維持したまま、画面一杯になるように引き伸ばして表示します。画面と画像の縦横比率が異なると、画像の一部がカットされて表示されます。 メモ 画像のみに設定することができます。

で注意

- 縦横比と一致しないモードで表示すると正しく表示されない場合があります。
- 本機のソフトウェアのバージョンによっては使用できる機能が異なる場合があります。



- USB 機器内の動画、USB 機器内の静止画、AUX など、画像系の AV ソースごとに設定が保持されます。
- Zoom** (ズーム) に設定すると表示が粗くなります。
- 画像ファイルは **Normal** (ノーマル) または **Trimming** (トリミング) に設定することができます。

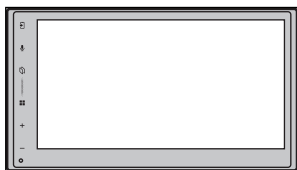
接続・取り付け上のご注意

- ・接続する前に、必ず車のバッテリーの⊖端子を外してください。
- ・車への取り付けは、必ず本書に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方や、指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。
- ・別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

接続・取り付け部品の確認

■ 本体関係

- ① 本体 × 1



■ ネジ (呼び径×ネジ長さ、ネジ色)

- ② 皿ネジ (5 mm × 8 mm、銀色) × 6
③ バインドネジ (5 mm × 8 mm、銀色) × 6

■ マイク・GPS アンテナ関係

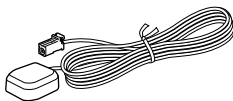
- ④ ハンズフリー通話用マイク × 1



- ⑤ ハンズフリー通話用マイク用両面テープ × 1



- ⑥ GPS アンテナ × 1



- ⑦ GPS アンテナ用両面テープ × 1

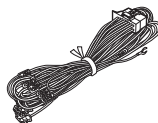


- ⑧ クランプ × 3

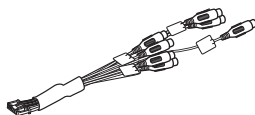


■ コード関係

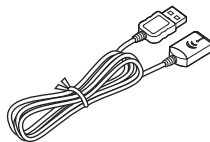
- ⑨ 電源コード × 1



- ⑩ RCA 入出力ケーブル × 1



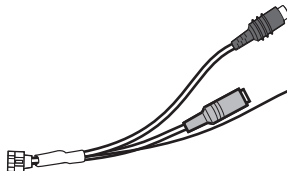
- ⑪ USB ケーブル × 1



- ⑫ 外部入力ケーブル (AUX IN) × 1



- ⑬ AV ケーブル × 1

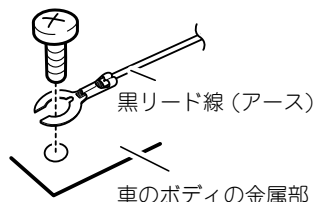


車に本機を接続する

接続の前に知ってほしいこと

■ 接続上のご注意

- 本機の黒リード線(アース)を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



- 本機は、エンジンスイッチにACCがない車では使用できません。必ず、エンジンスイッチにACCがある車でご使用ください。車がキーレスの場合は、最寄りの販売店にご相談ください。
- 赤リード線(アクセサリ電源)は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。**接続すると車のバッテリーが消耗します。**
- 若草色リード線(パーキングブレーキスイッチ)は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。**接続しないと一部の機能が使用できなくなります。**
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障するおそれがあります。
- スピーカーのリード線をアースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機のアンプにはBTLという回路を使用しています。スピーカーのリード線を直接アースに接続したり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーの使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。
- 黒リード線(アース)は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。

- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青/白リード線(アンテナコントロール)を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

☒メモ

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります(ラジオがONにならないと、ブースターがONにならない車もあります)。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

■ 接続のポイント

ノイズ防止のために

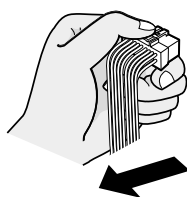
- アンテナコードは、スピーカーコード、および電源リード線などと束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。
- ノイズ防止のため、次のものは本機や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * FM / AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。**一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。**アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなる場合は、バッテリーから直接電源を取ることをおすすめします。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

■ コネクタ着脱のポイント

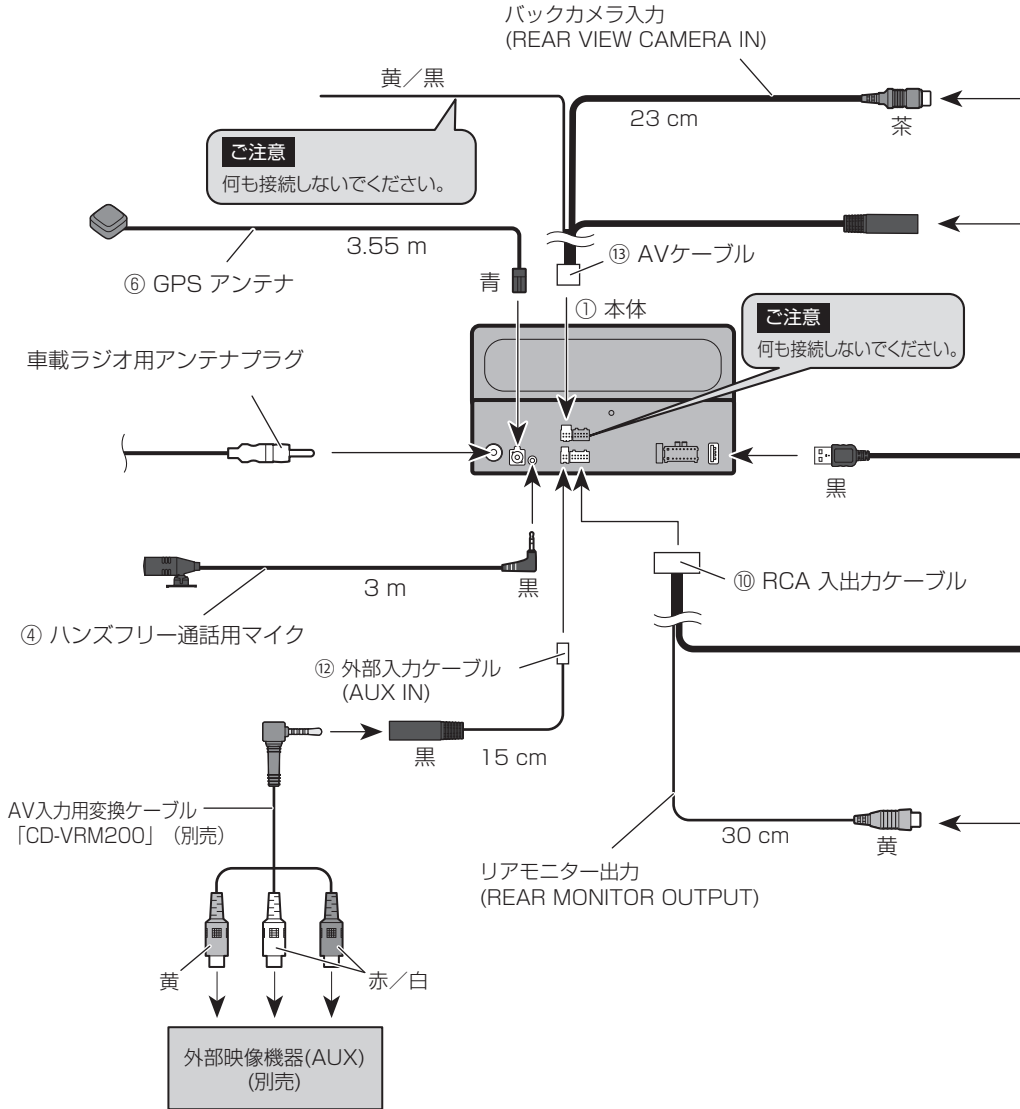
- コネクタは、「カチッ」と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- コネクタを外すときは、コネクタ部分を持って引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。

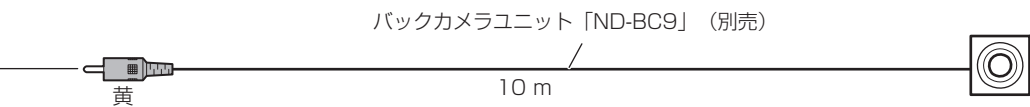


例：電源コードの場合

システムの接続

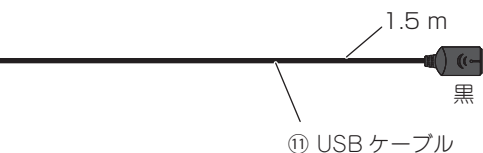
詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



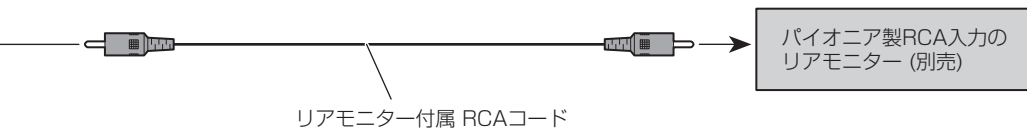


ステアリングリモコンアダプター／ステアリングリモコンケーブル接続端子

別売りのステアリングリモコンアダプターまたはステアリングリモコンケーブルを接続します。
必ずステアリングリモコンの設定を行ってください。(→P42)
設定を行わないと動作しません。



他のリード接続は以下を参照してください。
(→P60)



ご注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。

電源コードの接続

■アース・バッテリー電源・アクセサリ電源などの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

製品の発煙・故障を防ぐために、黒リード線を必ず最初に接続してください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

イルミ電源

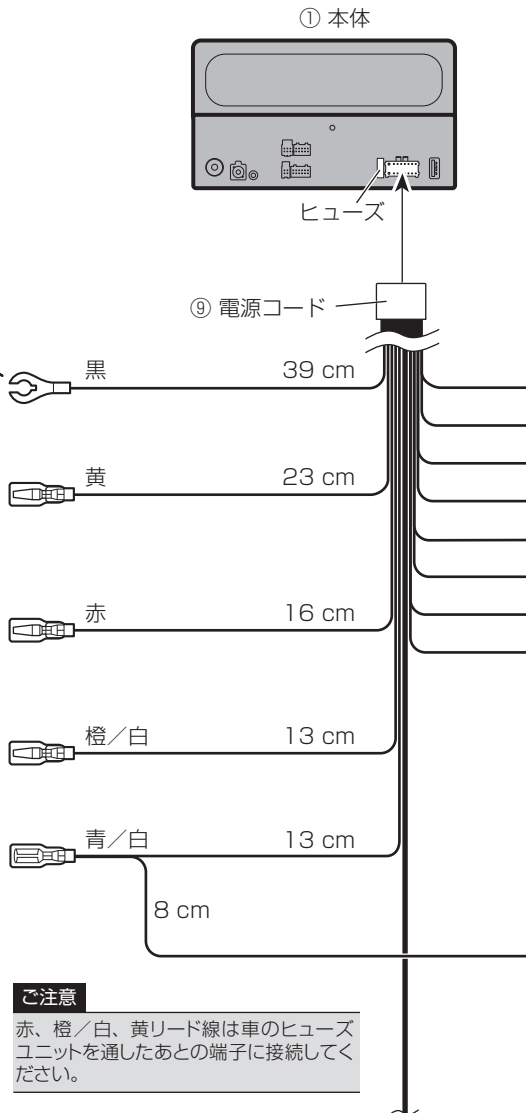
車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。)以下車両については未接続状態の場合ラジオが受信できない場合がありますので必ず接続してください。

●オートアンテナ車の場合：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。

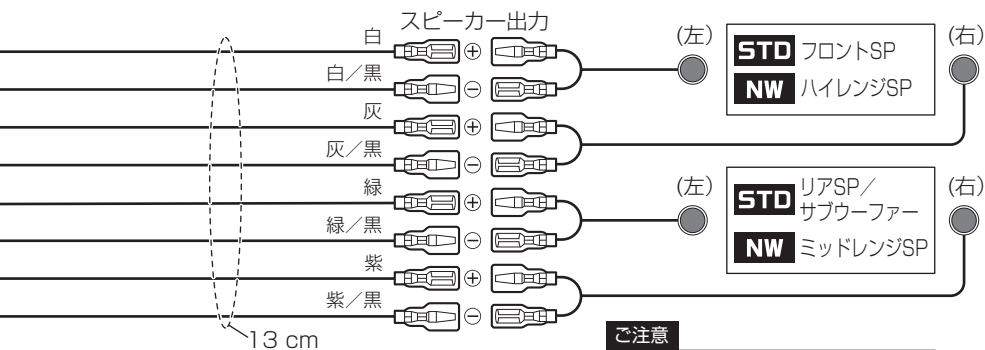
※車載のアンテナがオートアンテナの場合、ACC電源に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。

●ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：車側のアンテナブースターの電源入力端子に接続してください。



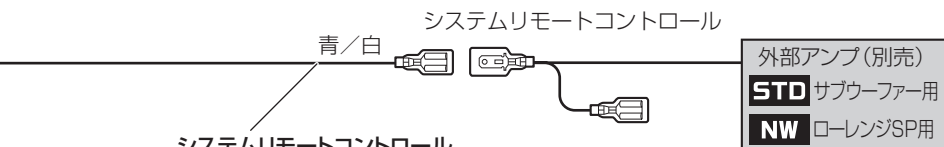
電源コードおよび他のリード接続は以下を参照してください。

(→ P58)、(→ P60)、(→ P62)



ご注意

スピーカーを接続しないスピーカーリード線には何も接続しないでください。



システムリモートコントロール

外部アンプのON/OFFをコントロールするために使用します。(12 V DC, 300 mA以内でご使用ください。)

STD :スピーカーモード設定がスタンダードモードのとき

NW :スピーカーモード設定がネットワークモードのとき

■バック信号入力・車速信号・パーキングブレーキコードの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

⑨ 電源コード

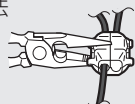
バック信号入力

この接続は車の前進／後退を判断するためのものです。バックランプのリード線などの「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進／後退を正しく検知できないことがあるため、
自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットをお使いになる場合は必ず接続
してください。接続しないとバックカメラ映像に切りかわり
ません。

接続方法



リード線をはさ
み込む。



ラジオペンチで
強くはさむ。

紫／白 2 m

ご注意

電源コードのヒューズ抵抗から本体
の間に他の機器のリード線を接続し
ないでください。

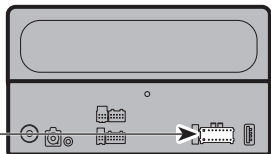
ご注意

長さが足りないときは、別売の電
源コードをご使用ください。

バックランプの
リード線など

ヒューズ抵抗

① 本体



車のインジェクションコンピューター

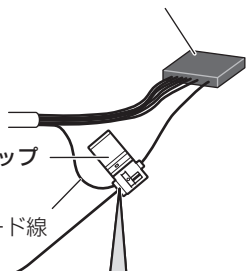
車速信号

車の走った距離を検出するために使用します。

必ず車の車速検出回路に接続してください。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置および車速検出回路リード線の線径は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

市販のエレクトロタップ (配線コネクター)
車速検出回路のリード線



ピンク 2 m (線径 : AVS 0.3sq / AWG 22)

ご注意

必ず電源コード側と車両側の車速検出回路リード線の線径に合ったエレクトロタップ (配線コネクター) を使用してください。線径が合っていない物を使用すると接触不良の原因となります。

電源コードおよび他のリード接続は以下を参照してください。

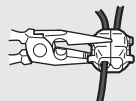
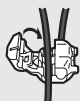
(→ P56)、(→ P60)、(→ P62)

パーキングブレーキコード

若草色 2 m



接続方法



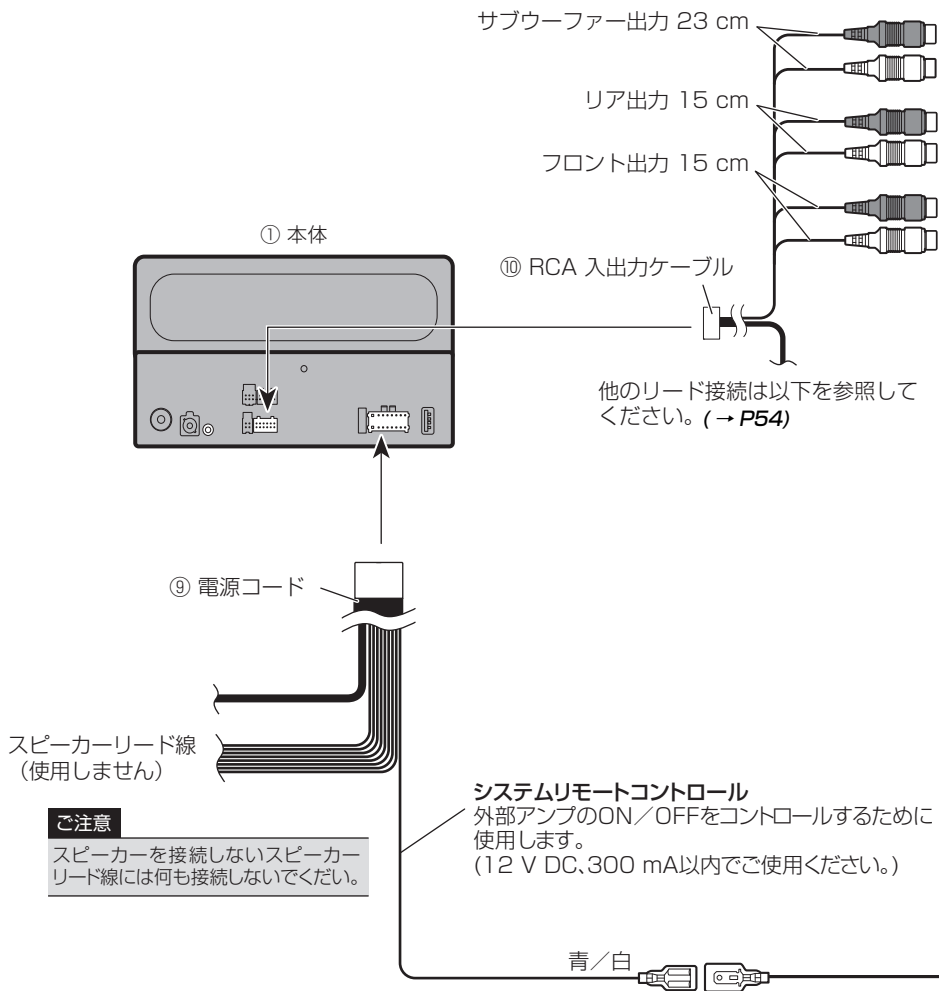
パーキングブレーキスイッチの+側リード線をはさみ込む。

ラジオペンチで強くはさむ。

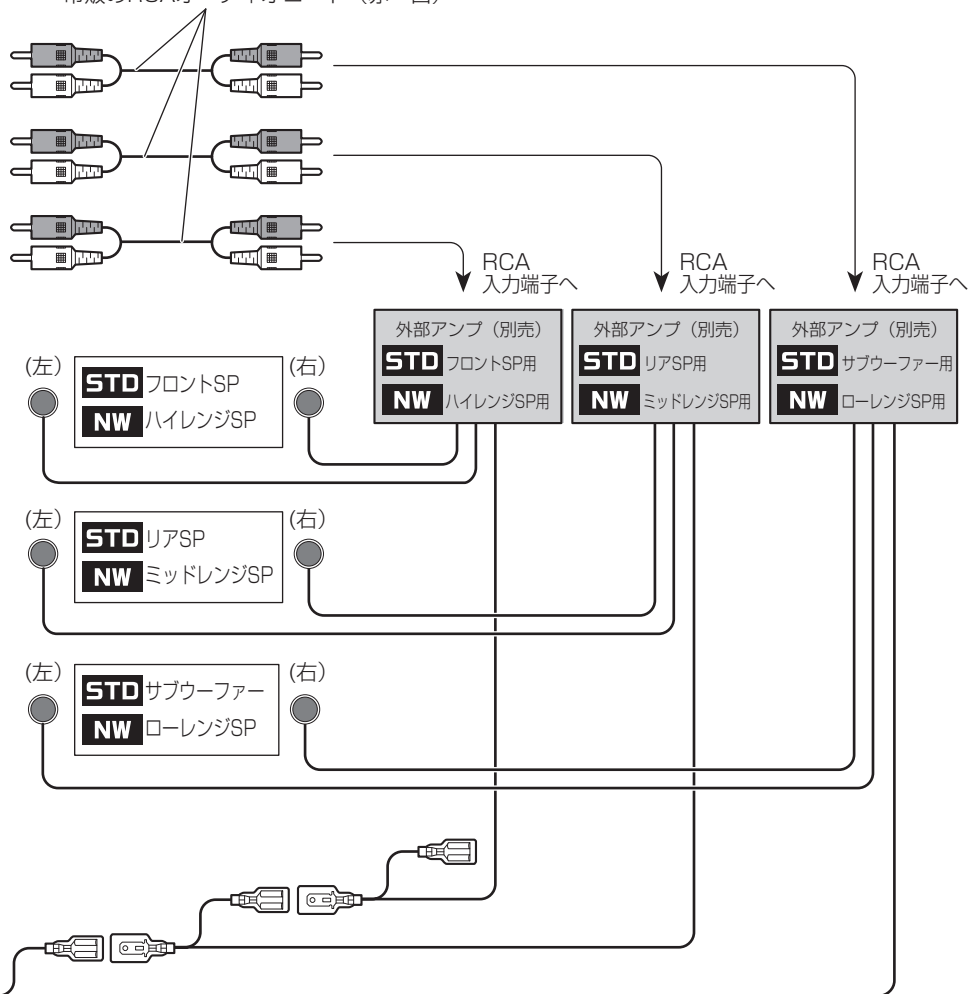
本機の接続 / 取り付け

外部アンプの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



市販のRCAオーディオコード（赤・白）



システムリモートコントロール

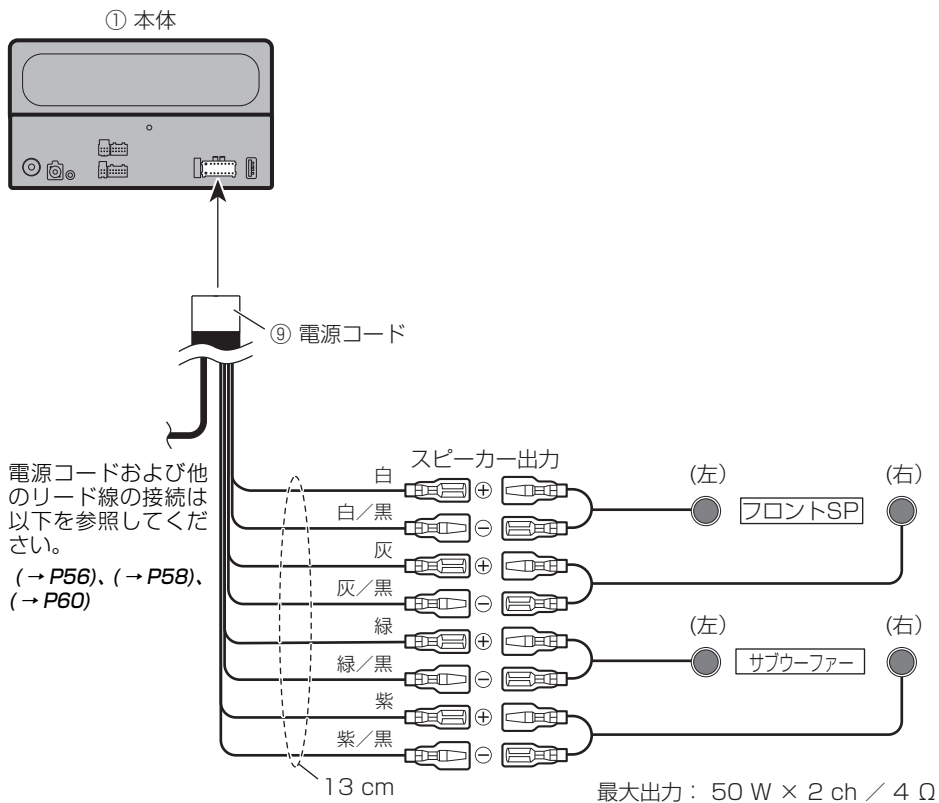
STD	:スピーカーモード設定がスタンダードモードのとき
NW	:スピーカーモード設定がネットワークモードのとき

本機の接続／取り付け

サブウーファーの接続

■パターン①

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



本機の接続／取り付け

ご注意

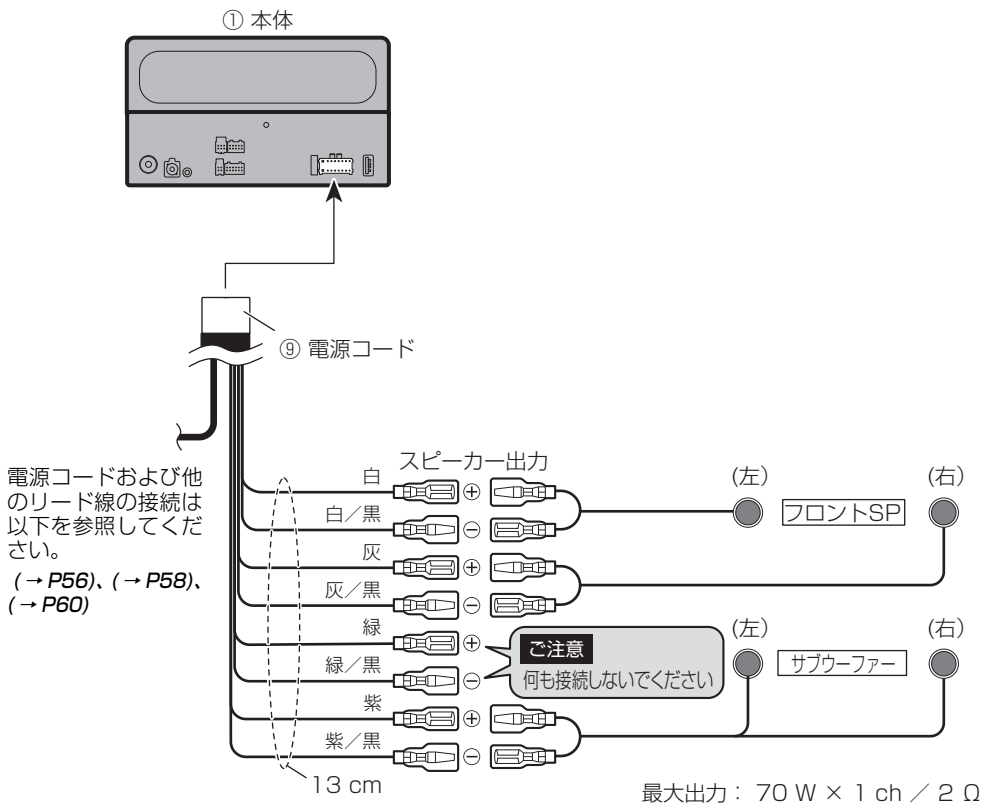
本機にサブウーファーを接続したときは、オーディオ設定メニューのサブウーファーのオン/オフの設定をオンに設定してください。(→ P48)

メモ

上記の接続例は、4 Ωのサブウーファー 2 個を 2 ch / 4 Ωとして使用しています。

■パターン②

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



ご注意

本機にサブウーファーを接続したときは、オーディオ設定メニューのサブウーファーのオン／オフの設定をオンに設定してください。(→ P48)

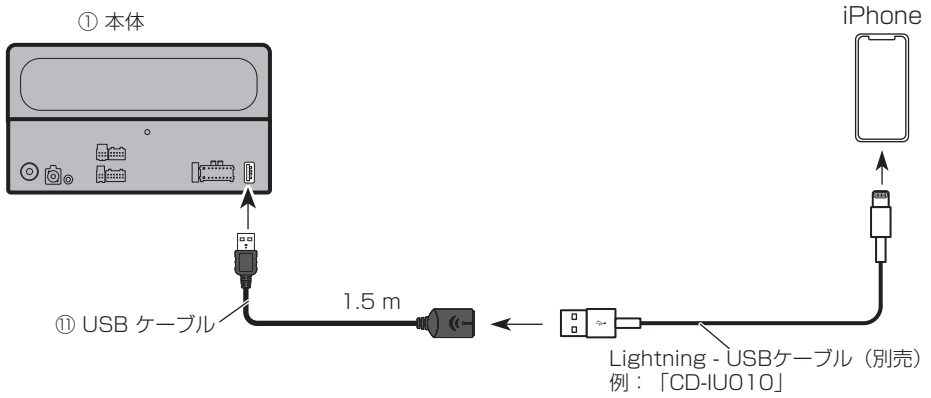
メモ

上記の接続例は、4 Ωのサブウーファー2個を並列接続して1 ch / 2 Ωとして使用しています。

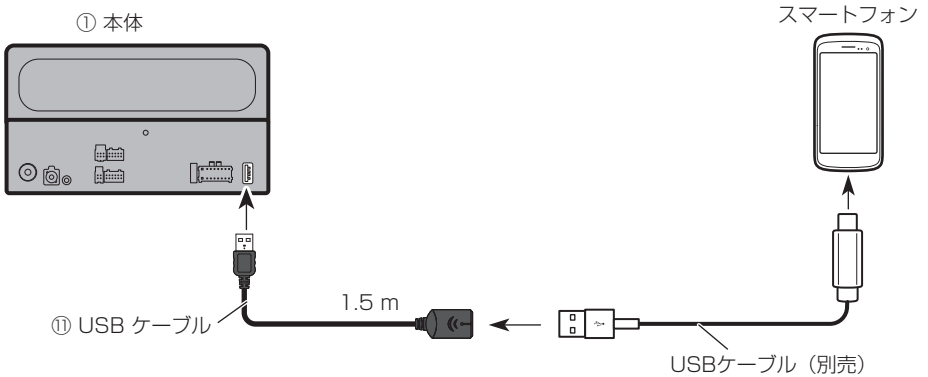
iPhone / スマートフォンの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ iPhone を接続する場合



■ スマートフォンを接続する場合

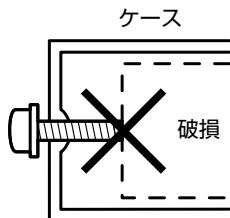


車に本機を取り付ける

取り付けの前に知ってほしいこと

■ 取り付け上のご注意

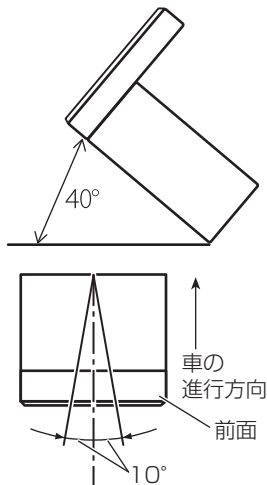
- 必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、確実に固定できずに外れたりして危険です。



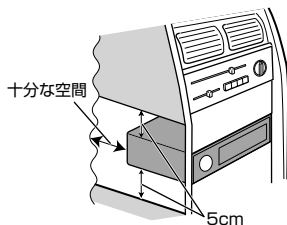
- 車種により製品取り付けの際に車両側の一部加工が必要となる場合があります。その場合加工後は加工した箇所は復元は出来ません。ご了承ください。

詳しくは販売店にご相談ください。

- 本機の性能を十分に発揮するために、できるだけ水平に取り付けてください。また、取り付ける車両の特性上、取り付け角度が傾いてしまう場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対して本体の前面が 10 度以内の角度で取り付けてください。



- 取り付け時は、放熱をよくするために、機器の背面に十分な空間を確保してください。通風孔をふさぐことのないように、ケーブル類はまとめてください。



- 本機を車に取り付ける際に、本機を無理に押し込まないでください。

USB 端子を損傷するおそれがあります。

■ 取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから取り付けてください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

取付キットを別売しています

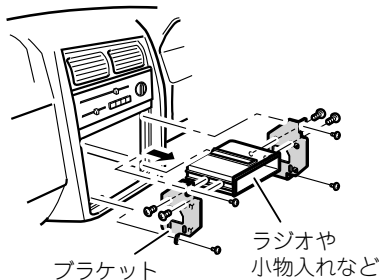
- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意していますので、販売店にご相談ください。

本機の取り付け

1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを留めているブラケットを取り外します。

そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



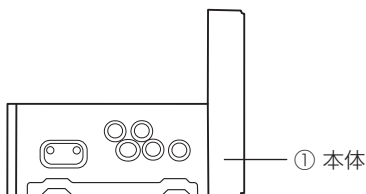
ご注意

取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ留めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。

ブラケットにあったネジ穴を使用して取り付けてください。ネジ穴は下図を参照してください。



メモ

車種によっては、ネジ穴をずらして取り付け位置を調整できます。

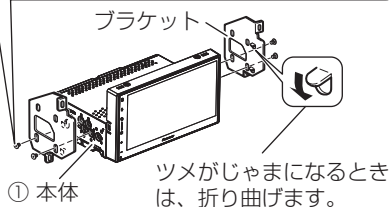
3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ3カ所ずつ、付属のネジでネジ留めして、元通り車に取り付けます。

② 皿ネジ (5 mm × 8 mm、銀色) × 6

③ バインドネジ (5 mm × 8 mm、銀色) × 6

ブラケットのネジ穴の形状に合わせてネジを選びます。

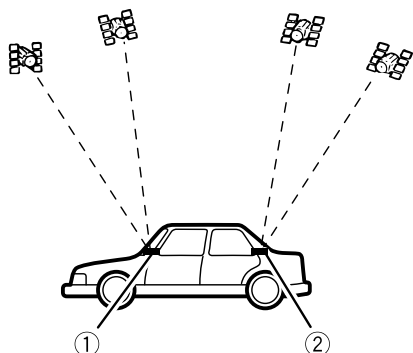


ご注意

本機を車に取り付ける際に、本機を無理に押し込まないでください。USB 端子を損傷するおそれがあります。

GPS アンテナの取り付け

■ 取り付け上のご注意

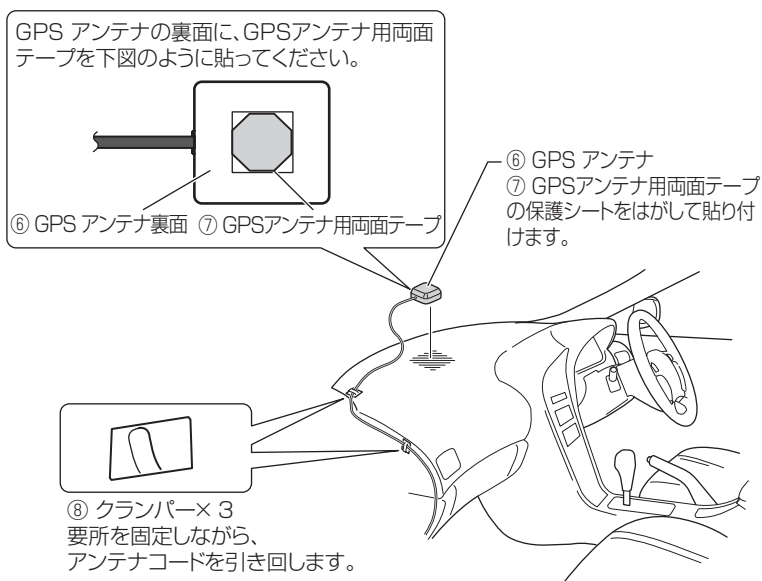


ご注意

- GPS アンテナは、ダッシュボード (①) またはリアシエルフ (②) 上に取り付けてください。
- 付属の GPS アンテナは車室内取り付け専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ (車室外取付用) をご使用ください。
- GPS アンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナは、グローブボックス内などには設置しないでください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナは、本体から 30 cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くときも、本体から 30 cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

■ 取り付け例 (ダッシュボード上)

車室内のなるべく水平な場所で、アンテナが空からの電波を受けやすい場所に GPS アンテナを貼り付けます。GPS アンテナの接続状態と受信状態は確認することができます。(→ P44)



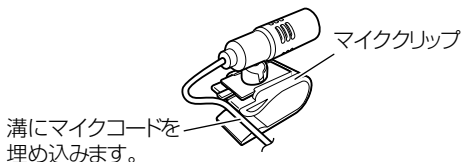
ハンズフリー通話用マイクの取り付け

■ 取り付け上のご注意

- ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけ運転者の近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。
- マイクコードの配線の引き回しによっては、長さが足りずサンバイザーへの取り付けができない場合があります。その場合は、配線の引き回し位置を変えて取り付けてください。

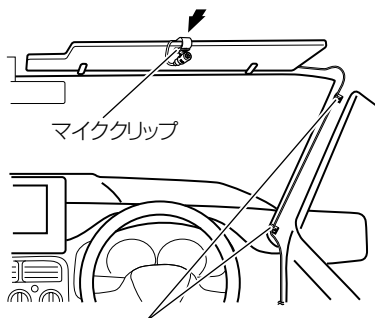
■ サンバイザーには自分で取り付ける場合

1 マイククリップの溝にマイクコードを埋め込む



2 サンバイザーにマイククリップを挟み込み、マイクを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、通話相手側へ音声が届きにくくなります。

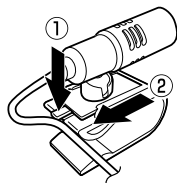


市販のクランパーなどで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。

■ ステアリングポストに取り付ける場合

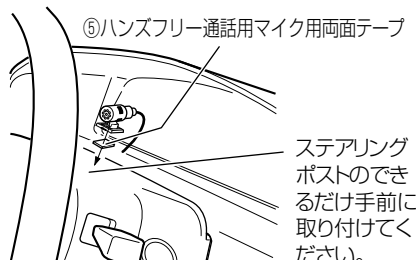
1 マイククリップを取り外す

①のロックボタンを押しながら②の方向にスライドします。



2 ステアリングポストにマイクを取り付ける

ステアリングポストに、付属の⑤ハンズフリー通話用マイク用両面テープで貼り付けます。



■ マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイクの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



動作を確認する

接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認および設定を行ってください。

1 接続・取り付けをもう一度確認する

ご注意

接続・取り付けに誤りがないか、各コネクタは確実に接続されているか、もう一度、確認してください。

2 車のエンジンをかける

3 ケーブルやリード線の接続及び取り付けを確認する (→P44)

GPS アンテナや取り付け位置などの確認を行ってください。正しく接続されていない場合やしっかりと固定されていない場合は接続および取り付けをやり直してください。

4 初期設定および組み合わせた製品の設定をする

初期設定	初期設定をしていない場合は行ってください。初期設定については、「初めて電源を入れるとき」(→P15)を参照してください。
組み合わせた別売品	バックカメラ：(→P50) ステアリングリモコン：(→P42) リアモニター：(→P24)

メモ

組み合わせた別売品の取扱説明書も併せてご覧ください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」(→P74)をお読みになり、修理を依頼してください。

■ 共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	コネクタが奥までしっかり挿入されているか、アース線がボディーの金属部にしっかり接続されているかどうか、もう一度確認してください。(→P54～64)
	ヒューズが切れている。	切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。(→P56)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください。(→P14)
	ミュートがONになっている。	ミュートを解除してください。(→P19)、(→P49)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(→P46)
	接続が間違っている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(→P54～64)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(→P46)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(→P46)
映像が出ない。	パーキングブレーキコードが接続されていない。 パーキングブレーキをかけていない。	パーキングブレーキコードを接続し、パーキングブレーキをかけてください。(→P58)
音や映像が途切れる。	本機が確実に固定されていない。	本機を確実に固定してください。
画像の一部が隠れる、画面が伸びる、アスペクト比が合わない。	ディスプレイに対しての設定が正しくない。	ディスプレイに合った設定にしてください。(→P51)

■ ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、「ジージー、ザーザー」という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (→ P25)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (→ P25)
	周りに障害物があるなど、受信状態がよくない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。 (→ P53)
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(→ P25)
ラジオが受信できない。 FMは受信するが、AMが受信できない。	アンテナコントロールが接続されていない。	アンテナコントロールを正しく接続してください。(→ P56)
受信感度が悪い。	自動車のアンテナがのびていない。	アンテナを確実に伸ばしてください。

■ USB

症状	原因	処置
ファイルを再生できない。	再生できないファイルです。	対応フォーマットを確認してください。 (→ P76)
	対応していないビットレートで記録されている。	対応しているビットレートで記録されたファイルを使用してください。 (→ P76)
聴きたいファイルが見つからない。	ファイルに正しい拡張子が付いていない。	ファイルに正しい拡張子を付けてください。(→ P76)

■ Apple CarPlay (USB 接続) / Android Auto (USB 接続)

症状	原因	処置
機能が立ち上がらない。	接続ケーブルが正しく接続されていない。	接続ケーブルを外し、もう一度接続してください。(→ P64)
	本機で対応していない iPhone / スマートフォンを使用している。	本機で対応している iPhone を使用してください。(→ P11) Android 8.0以降搭載の Android スマートフォンをご使用ください。

■ Apple CarPlay (ワイヤレス接続) / Android Auto (ワイヤレス接続)

症状	原因	処置
機能が立ち上がらない。	お持ちの iPhone / スマートフォンの Bluetooth 機能がオフになっている。	iPhone / スマートフォンの Bluetooth 機能をオンにしてください。
	お持ちの iPhone / スマートフォンを本機に登録していない。	本機に登録してください。 「Apple CarPlay を利用する」(→ P36) 「Android Auto を利用する」(→ P37)
	GPS アンテナを取り付けていない。	GPS アンテナを取り付けてください。 (→ P67)

■ Bluetooth (iPhone / スマートフォン含む)

症状	原因	処置
Bluetooth 接続ができない。	Bluetooth 機器登録をしていない。 接続する機器を変えた。	接続したい機器を本機に機器登録してください。 接続したい機器に切りかえてください。
音が出ない、音が小さい。	Bluetooth Audio 機器側の音量が小さい。	Bluetooth Audio 機器側の音量を上げてください。
HFP 接続はできるが、SPP 接続ができない (アプリ機能が使えない)。	Bluetooth 機器が正しく動作していない。	Bluetooth 機器の Bluetooth 通信機能を OFF → ON してください。それでも正常にならない場合は、Bluetooth 機器を再起動してください。
HFP 接続ができない。	Bluetooth 機器が認識されていない。	車のエンジンスイッチを OFF → ON (ACC OFF → ON) してください。 接続ができない登録済みの機器を削除し、もう一度登録・接続を行ってください。
接続中の Bluetooth Audio 機器との接続が一時的に中断する。	Bluetooth 機器が正しく動作していない。	以下を試してください。自動的に再接続を行います。 ・ AV ソースを切りかえる ・ ACC を OFF / ON にする

■ WebLink®

症状	原因	処置
音が出ない。	接続したい機器の Bluetooth 接続がされていない。	接続したい機器を本機に Bluetooth 接続してください。(→ P21)
音が小さい。	接続機器側の音量が小さい。	接続機器側の音量を上げてください。

こんなメッセージが表示されたら

■ 共通項目

メッセージ	メッセージが表示されるとき	処置
スピーカーの配線、または本機に異常を検知しました。スピーカーの配線を確認してください。	スピーカーの接続状態または本機に異常があり、保護回路が動作した。	スピーカーの接続状態をご確認ください。エンジンスイッチを OFF → ON (ACC OFF → ON) してもメッセージが消えない場合は、販売店またはパイオニアカスタマーサポートセンターにご相談ください。

■ USB

メッセージ	メッセージが表示されるとき	処置
このコンテンツは再生できません	ファイルが本機で再生できないとき。 セキュリティ機能付きの USB 機器を接続したとき。	本機で再生できるファイルに切りかえてください。 USB 機器の説明書にしたがって、セキュリティを解除してから使用してください。
再生できるファイルがありません	曲が入っていないとき。	オーディオファイルを USB 機器に転送し、本機に接続してください。
フォーマット読み込み中	再生操作を行ってから再生が開始するまでに時間がかかるとき。	メッセージが消え、再生が開始されるまでしばらくお待ちください。
この USB デバイスは使用できません	接続された USB 機器が本機に対応していないとき。 接続された USB 機器のフォーマットが、FAT16、FAT32、NTFS ではないとき。	USB Mass Storage Class 対応の、USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB 機器を接続してください。 フォーマットが FAT16、FAT32、NTFS の USB 機器を接続してください。
過電流保護の為、USB の接続を中止しました。その USB 機器を本機に接続しないでください。再起動して下さい。	USB コネクタまたは USB 延長ケーブルがショートしたとき。 規定以上の電流を消費する USB 機器を接続したとき。	USB コネクタまたは USB 延長ケーブルが破損していないか確認してください。 接続した USB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にしてください。次に、対応する USB 機器を接続してください。
再生できないファイルフォーマットです	ファイルタイプが本機に対応していないとき。	本機で再生できるファイルに切りかえてください。

保証書とアフターサービス

■ 保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、ご購入の際に販売店より受け取ってください。保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

■ 修理について

本機は持ち込み商品のため出張修理は承っておりません。引き取り修理サービスをご利用ください（お車から取り外していただいた状態での引き取りとなります。また送料はお客様ご負担となります）。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口にご連絡ください。連絡先については、裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。尚、生産終了により補修用性能部品の調達や修理後の性能保証などの事情から修理できない場合があります。あらかじめご了承ください。

車からの脱着（お取り外し・お取り付け）について

弊社修理拠点へのお持ち込みは、製品をお車から取り外した状態で、承ります。なお、修理・点検時における本製品のお車からの脱着費用の負担、及び脱着作業は承っておりません（保証期間内含む）。販売店、または取り付け店にご相談ください。

■ ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はバイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標・著作権など

本機は、電波法に基づく工事設計認証を取得しています。



☎ 218-230179

Bluetooth

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。パイオニア株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

Wi-Fi

Wi-Fi® は Wi-Fi Alliance® の登録商標です。

WMA

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国および/またはその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。

JPEG

本製品の一部に Independent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。

Windows

Windows は、米国 Microsoft Corporation. の米国 および／またはその他の国における登録商標または商標です。

FLAC について

Copyright © 2000-2009 Josh Coalson

Copyright © 2011-2013 Xiph.Org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Android、Android Auto

Android、Android Auto は Google LLC の商標です。

Apple CarPlay、iPhone、iTunes、Lightning、QuickTime、Siri

Apple CarPlay、iPhone、iTunes、Lightning、QuickTime および Siri は米国、他の国々および地域で登録された Apple Inc. の商標です。日本における iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

このアクセサリを Apple 製品と使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

Siri はマイクを通して機能します。

iOS

iOS は米国その他の国における Cisco の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

WebLink[®]

WebLink[®] は、Abalta Technologies, Inc. の登録商標です。

WebLink[®] でアクセスしたコンテンツや機能については、アプリやコンテンツの提供者の責任であり、この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

WebLink[®] でアクセスした当社以外のコンテンツやサービスの提供は予告なく変更または中止されることがあります。

WebLink[®] Cast

WebLink[®] Castは、Abalta Technologies, Inc. の商標です。

YouTube

YouTube は Google LLC の商標です。

再生可能なメディアとファイルについて

本機では、次の条件に合ったファイルを再生することができます。

フォーマット	拡張子	対応メディア
		USB (MSC 接続)
MP3	.mp3	○
WMA	.wma	○
WAV	.wav	○
AAC	.m4a	○
FLAC	.flac	○
MPEG-4	.mp4 / .mkv / .mov / .avi / .m4v / .ts / .m2ts / .mts	○
MPEG-2	.mpg / .mpeg / .ts / .m2ts / .mts	○
H.264	.mp4 / .mkv / .mov / .flv / .avi / .m4v / .ts / .m2ts / .mts	○
H.263	.mp4 / .mov / .avi / .m4v	○
VC-1	.wmv / .mkv	○
JPEG	.jpg / .jpeg	○
PNG	.png	○
BMP	.bmp	○

■ 共通

ファイルシステム	FAT16 FAT32 NTFS
最大フォルダー数	999
最大ファイル数	9 999

■ MP3 (音声ファイル)

ビットレート	8 kbps ~ 320 kbps (CBR) / VBR
サンプリング周波数	8 kHz ~ 48 kHz
ID3 tag	Ver.1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4

■ WMA (音声ファイル)

ビットレート	8 kbps ~ 320 kbps (CBR) / VBR
サンプリング周波数	32 kHz ~ 48 kHz

■ WAV (音声ファイル)

シグナルフォーマット	リニア PCM (LPCM)
量子化ビット数	8bit / 16bit / 24bit / 32bit(int のみ)
サンプリング周波数	16 kHz ~ 192 kHz



ファイルのサンプリング周波数が 48kHz を超える場合は、本機側で 48kHz にダウンコンバートして再生されます。

■ AAC (音声ファイル)

ビットレート	16 kbps ~ 320 kbps (CBR)
サンプリング周波数	8 kHz ~ 48 kHz



iTunes でエンコードされた AAC ファイルを再生できます。

■ FLAC (音声ファイル)

量子化ビット数	8bit / 16bit / 24bit
サンプリング周波数	8 kHz ~ 192 kHz



メモ
ファイルのサンプリング周波数が 48kHz を超える場合は、本機側で 48kHz にダウンコンバートして再生されます。

■ MPEG-4 (動画ファイル)

最大解像度	1 920 ピクセル × 1 080 ピクセル
最大フレームレート	30 fps
最大ビットレート	40 Mbps

■ MPEG-2 (動画ファイル)

最大解像度	1 920 ピクセル × 1 080 ピクセル
最大フレームレート	30 fps
最大ビットレート	40 Mbps

■ H.264 (動画ファイル)

最大解像度	1 920 ピクセル × 1 080 ピクセル
最大フレームレート	30 fps
最大ビットレート	40 Mbps

■ H.263 (動画ファイル)

最大解像度	1 920 ピクセル × 1 080 ピクセル
最大フレームレート	30 fps
最大ビットレート	20 Mbps

■ VC-1 (動画ファイル)

最大解像度	1 920 ピクセル × 1 080 ピクセル
最大フレームレート	30 fps
最大ビットレート	45 Mbps

■ JPEG (静止画ファイル)

最大解像度	5 000 ピクセル × 5 000 ピクセル
-------	-------------------------

■ PNG (静止画ファイル)

最大解像度	720 ピクセル × 576 ピクセル
-------	---------------------

■ BMP (静止画ファイル)

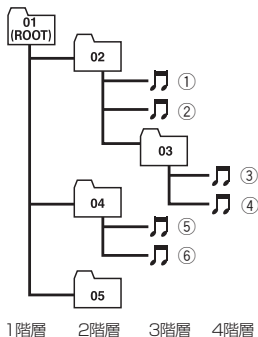
最大解像度	1 920 ピクセル × 936 ピクセル
-------	-----------------------

ご注意

- ファイルをエンコードしたアプリによっては、正常に動作しないことがあります。
- ファイルをエンコードしたアプリによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含む音楽ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- 本機は、以下の形式には対応していません。
 - Windows Media™ Audio Professional (5.1 ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice
 - Apple ロスレス・エンコーダ
- ID3 tag の Ver.1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver.2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。ID3 tag の環境によっては正常に表示されない場合があります。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- iTunes Store で購入された音楽 (.m4p) は、USB 機器に記録して再生できません。
- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- 2 GB を超える音楽ファイル、16 GB を超える動画ファイルは、再生しない場合があります。

メディア内のフォルダー構成について

- メディア内のフォルダーと圧縮音源ファイルの構成は、下図のようになります (USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合は異なります)。



- 01 ~ 05 はフォルダー番号の割り当て、①~⑥は曲の再生順の例です。お客様が本機を操作してフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、USB メモリーに書き込まれた順番になります。
- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。
 1. コンピューターで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
 2. それらのファイルをフォルダーに入れる。
 3. フォルダー単位でメディアにコピーする。ただしコンピューターの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。

ご注意

- 対応した音楽ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8 階層までの音楽ファイルの再生に対応しています。ただし階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- フォルダー名、ファイル名 (拡張子を含め) の最大表示文字数は半角 255 文字 (全角 127 文字) です。
- 再生できるフォルダー、ファイルの合計は以下の通りです。
 - USB : 最大 999 フォルダー、最大 9 999 ファイル

A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)

音声をワイヤレスで伝送するためのプロファイルです。

AAC

「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile)

音楽の選曲操作や情報表示するためのプロファイルです。

BSM

「Best Stations Memory」の略で、受信状態の良い放送局を探して、プリセットチャンネルに自動的に登録する機能です。

DRM

DRMはDigital Rights Managementの略。デジタルコンテンツにおいてコンテンツホルダーが持つ著作権などの権利が不当に侵害されることを防ぐため、コンテンツの利用や複製を制限する仕組みの総称です。

DSD

Direct Stream Digital (ダイレクト・ストリーム・デジタル)の略称。音声をデジタル化する方式の1つで、音の細かいニュアンスの忠実な再現を目指して開発されたフォーマットです。

EXIF

「Exchangeable Image File Format」の略です。富士フィルムが提唱した、デジタルカメラ用の画像ファイルの規格です。各社のデジタルカメラでの標準仕様として採用されています。画像データだけでなく、縮小画像(サムネイル)や、画像についての情報、撮影日時などの付加情報を記録できます。

FLAC

「Free Lossless Audio Codec」の略で、オープンソースとして開発された音声フォーマットです。MP3やAACと異なり、可逆圧縮であるため、音質を劣化させることなく圧縮できます。

H.264

動画圧縮規格の一つです。従来方式であるMPEG-2などの2倍以上の圧縮効率を実現し、携帯電話などの低ビットレート用途から、HDTVクラスの高ビットレート用途に至るまで幅広く利用されることを想定しています。

HFP (Hands Free Profile)

ハンズフリー通話するためのプロファイルです。

ID3 tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

JPEG

「Joint Photographic Expert Group」の略で、画像圧縮技術に関する基本フォーマットです。

m3u

プレイリストファイルの拡張子(.m3u)で、「WINAMP」などのソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3

MPEG Audio Layer3の略。ISO(国際標準化機構)のワーキンググループ(MPEG)の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮できます。

MPEG

Moving Picture Experts Groupの略。「エムペグ」と読みます。これは動画圧縮の国際標準です。

MSC

Mass Storage Class の略。USB 機器の典型的な機能や接続・制御仕様の標準を定めた USB デバイスクラスの一つで、ストレージ（外部記憶装置）について定めた規格です。

PBAP

Phone Book Access Profile の略。機器間で電話帳オブジェクトを交換するための手順とプロトコルを定義しています。特に、車載端末デバイスがモバイルデバイスから電話帳オブジェクトを取得します。自動車のハンズフリーの使用例に合わせて設計されています。また、このプロファイルは、サーバー機器に保存されている電話帳オブジェクトへのアクセスを必要とするあらゆるクライアント機器によって使用される可能性があります。

SPP

Serial Port Profile の略。シリアル通信するためのプロファイルです。

TI

Traffic Information の略。警察や国土交通省、各道路管理会社が運転者に向けて道路状況や渋滞情報などを 1,620kHz または 1,629kHz の路側放送で発信する交通情報のことです。

VBR

Variable Bit Rate (可変ビットレート) の略。一般的には CBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

Waveform の略。Windows® での標準音声フォーマットです。

WebLink®

Abalta 社の提供する、車載インフォテインメントにスマートフォン・アプリを表示したり、スマートフォンのブラウザをそのまま活用できるようにするテクノロジーです。

WMA

Windows Media Audio の略。米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用してエンコードできます。

YouTube

YouTube は Google 社が運営する世界最大の動画共有サービスです。本機では WebLink® Host アプリをインストールした iPhone / スマートフォンを接続することで視聴することができます。(※ 3rd パーティアプリはパイオニアの責任範囲外です。仕様が変わることがあります)

アスペクト比

テレビ画面の横と縦の比率をいいます。ノーマルディスプレイは 4 : 3 ですが、ワイドディスプレイは 16 : 9 の比率となっており、臨場感あふれる映像が楽しめるようになっています。

ビットレート

1 秒あたりの情報量を表し、単位は bps (bit per second) です。この数字が大きいくほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3 など) での比較では、一般的に数字が大きいく方が良い音となります (異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません)。

プライベートモード

通話時、ハンズフリー機能を一時的に使用せず、スマートフォンのスピーカーから音声を出力させる機能です。同乗者に通話内容を聞かれたくないときなどに使用します。

ミラーリング

iPhone やスマートフォンの画面を連動して表示させることです。iPhone やスマートフォンで操作したり、本機側で操作することができます。

仕様

■ 共通部

使用電源:	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式:	マイナスアース方式
最大消費電流:	10.0 A
外形寸法:	
	(取付寸法): 178 (W) mm × 100 (H) mm × 125 (D) mm
	(ノーズ寸法): 171 (W) mm × 97 (H) mm × 2 (D) mm
質量:	0.9 kg (コード含まず)

■ ディスプレイ部

画面サイズ:	6.8 型ワイドディスプレイ
アスペクト比:	16 : 9
有効表示面積:	151.8 mm × 79.68 mm
画素数:	800(水平) × 480(垂直) × 3(RGB)
方式:	TFT アクティブマトリクス方式
カラーシステム:	PAL / NTSC / PAL-M / PAL-N / SECAM 互換
使用温度範囲:	- 10°C ~ + 60°C

■ アンプ / オーディオ部

最大出力:	50 W × 4 ch
定格出力:	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD, 4Ω LOAD, Both Channels Driven)
負荷インピーダンス:	4 Ω
プリアウト最大出力:	4.0 V
イコライザー (13 バンドグラフィックイコライザー):	
	周波数: 50 Hz / 80 Hz / 125 Hz / 200 Hz / 315 Hz / 500 Hz / 800 Hz / 1.25 kHz / 2 kHz / 3.15 kHz / 5 kHz / 8 kHz / 12.5 kHz
	調整幅: ± 12 dB (2 dB / step)
< スタンダードモード >	
ハイパスフィルター:	ON / OFF
	周波数: 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz / 250 Hz
	スロープ: - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct
ローパスフィルター (サブウーファー):	ON / OFF
	周波数: 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz / 250 Hz
	スロープ: - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct, - 30 dB / oct, - 36 dB / oct
	位相: NORMAL / REVERSE
スピーカーレベル:	- 24 dB ~ +10 dB (1 dB / step)
タイムアライメント:	0 ~ 490 cm (1.4 cm / step)
< ネットワークモード >	
ハイパスフィルター (HIGH):	
	周波数: 1.25 kHz / 1.6 kHz / 2 kHz / 2.5 kHz / 3.15 kHz / 4 kHz / 5 kHz / 6.3 kHz / 8 kHz / 10 kHz / 12.5 kHz
	スロープ: - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct
位相 (HIGH):	NORMAL / REVERSE
ハイパスフィルター (MID):	ON / OFF
	周波数: 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz / 160 Hz / 200 Hz / 250 Hz
	スロープ: - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct

ローパスフィルター (MID) : ON / OFF
周波数 : 1.25 kHz / 1.6 kHz / 2 kHz / 2.5 kHz / 3.15 kHz / 4 kHz / 5 kHz /
6.3 kHz / 8 kHz / 10 kHz / 12.5 kHz
スロープ : - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct
位相 (MID) : NORMAL / REVERSE
ローパスフィルター (サブウーファー) : ON / OFF
周波数 : 25 Hz / 31.5 Hz / 40 Hz / 50 Hz / 63 Hz / 80 Hz / 100 Hz / 125 Hz /
160 Hz / 200 Hz / 250 Hz
スロープ : - 6 dB / oct, - 12 dB / oct, - 18 dB / oct, - 24 dB / oct, - 30 dB / oct,
- 36 dB / oct
位相 (サブウーファー) : NORMAL / REVERSE
スピーカーレベル : - 24 dB ~ +10 dB (1 dB / step)
タイムアライメント : 0 ~ 490 cm (1.4 cm / step)

■ USB 部

USB 規格 : USB 1.1、USB 2.0 Full Speed
USB 2.0 High Speed
最大供給電流 : 1.5 A
USB クラス : MSC (Mass Storage Class)
ファイルシステム : FAT16、FAT32、NTFS
< オーディオ >
MP3 デコーディング
フォーマット : MPEG-1 & MPEG-2 & MPEG-2.5 AUDIO LAYER-3
WMA デコーディング
フォーマット : Ver. 7、8、9、9.1、9.2 (2 ch オーディオ) (Windows Media Player)
AAC デコーディング
フォーマット : MPEG-4 AAC (Ver. 12.5 以前の iTunes でエンコードされたもののみ)
FLAC デコーディングフォーマット (MSC モードのみ) : V1.3.0
サンプリング周波数 : 8 kHz ~ 192 kHz
WAVE シグナル
フォーマット
(MSC モードのみ) : Linear PCM
サンプリング周波数 : 16 kHz ~ 192 kHz
< フォト >
JPEG デコーディング
フォーマット
(MSC モードのみ) : .jpeg、.jpg
ピクセルサンプリング : 4:2:2、4:2:0
デコードサイズ : 最大 : 5 000 (H) × 5 000 (W)
ファイルサイズ : 最大 : 6 MB
ファイルサイズ : 最小 : 10 KB
PNG デコーディング
フォーマット
(MSC モードのみ) : .png
デコードサイズ : 最大 : 576 (H) × 720 (W)
BMP デコーディング
フォーマット
(MSC モードのみ) : .bmp
デコードサイズ : 最大 : 936 (H) × 1 920 (W)

< ビデオ >

○ : 対応 - : 非対応

再生可能な動画形式 (コンテナ)		AVI	MP4	QuickTime (MOV)	WMV	MKV	FLV	MPEG1-PS MPEG2-PS	TS Stream
拡張子		.avi	.mp4/.m4v	.mov	.wmv	.mkv	.flv	.mpg/.mpeg	.ts/m2ts/mts
ビデオ コーデック	H.264	○	○	○	—	○	○	○	○
	H.263	○	○	○	—	—	○	—	—
	WMV9 (VC-1)	○	—	—	○	○	—	—	○
	MPEG-4	○	○	○	—	○	—	—	○
	MPEG-2	○	○	○	—	○	—	○	○
オーディオ コーデック	MPEG-1	○	—	—	—	○	—	○	○
	WMA	○	—	—	○	○	—	—	—
	MP3	○	○	○	—	○	○	○	○
	AAC	○	○	○	—	○	○	○	○
	FLAC	○	—	—	○	○	—	—	—
LPCM	○	○	○	—	○	○	○	○	

■ FM チューナー部

受信周波数帯域： 76.0 MHz ~ 99.0 MHz
 実用感度： 12 dBf (1.1 μV / 75 Ω、モノラル、S / N : 30 dB)
 S / N : 50 dB (IHF-A ネットワーク)

■ AM チューナー部

受信周波数帯域： 522 kHz ~ 1 629 kHz
 実用感度： 28 μV (S / N : 20 dB)
 S / N : 45 dB (IHF-A ネットワーク)

■ Bluetooth 部

Bluetoothバージョン：Bluetooth 5.3 certified
 出力： 最大 +4 dBm (Power class 2)
 Bluetooth Low Energy 出力： 最大 +4 dBm
 周波数帯域： 2 402 MHz ~ 2 480 MHz
 プロファイル： HFP (Hands Free Profile) 1.8
 PBAP (Phone Book Access Profile) 1.2.3
 A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) 1.4
 AVRCP (Audio / Video Remote Control Profile) 1.6.2
 AVCTP (Audio / Video Control Transport Protocol) 1.4
 AVDTP (Audio / Video Distribution Transport Protocol) 1.3
 GAVDP (Generic Audio / Video Distribution Profile) 1.3
 IOP (Interoperability Test Specification)
 RFCOMM(RFCOMM with TS 07.10) 1.2

■ Wi-Fi 部

バージョン： IEEE 802.11 a/n/ac (5GHz)
 周波数チャネル： 36 ch, 38 ch, 42 ch (5 GHz)
 セキュリティ： WPA2 (Personal) / WPA3 (Personal)
 出力： +13.0 dBm Max (5GHz)

■ GPS 部

レセプションシステム： 64-チャンネル マルチチャンネル レセプションシステム
 アンテナサイズ： 47 mm (W) × 16.2 mm (H) × 55 mm (D)

■ 付属品

電源コード：	1
RCA 入出力ケーブル：	1
USB ケーブル：	1
外部入力ケーブル (AUX IN)：	1
AV ケーブル：	1
取付ネジ類：	1 式
GPS アンテナ：	1 式
ハンズフリー通話用 マイク：	1 式
取扱説明書：	1
保証書：	1

ご注意

- 本書に記載している寸法・重量などは、実際の製品と異なる場合があります。実際の製品の仕様は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書に記載しているイラストと実物が、一部異なる場合があります。

索引

A

A2DP.....27, 28, 37, 39, 83
AAC.....76, 79, 82, 83
Android Auto.....12, 14, 18,
19, 23, 37, 38, 40, 51
Apple CarPlay.....12, 14, 19, 23, 36
AUX.....24, 32, 52, 54
AVRCP.....27, 28, 37, 39, 83

B

Bluetooth
Bluetooth の接続と設定.....21
Bluetooth 接続機器内の音楽を
再生する.....27
Bluetooth 接続し電話を使う.....33
BMP.....46, 77, 82
BSM.....26

D

DRM.....39, 79
DSD.....79

E

EXIF.....79

F

FAQ.....裏表紙 (サポートサイト)
FLAC.....75, 76, 77, 79, 82, 83

G

GPS アンテナ.....42, 44, 52, 54, 67

H

H.263.....76, 77, 83
H.264.....76, 77, 79, 83
HFP.....21, 33, 35, 37, 39, 72, 83

I

ID3 tag.....76, 79
iPhone.....11, 12, 21, 33, 39,
40, 64, 71, 72
iPhone の接続.....36

J

JPEG.....31, 46, 74, 76, 77, 79, 82

M

m3u.....78, 79
MP3.....76, 78, 79, 80, 83
MPEG.....79
MPEG-2.....76, 77, 83
MPEG-4.....76, 77, 83
MSC.....80, 82

P

PBAP.....34, 80, 83
Phone メニュー.....33, 40
PNG.....76, 77, 82

S

SPP.....21, 72

T

TI.....14, 26, 80

U

USB.....12, 36, 37, 39,
52, 55, 64, 71, 82
USB 機器.....10, 29, 31, 45, 73, 78

V

VBR.....76, 80
VC-1.....76, 77, 83

W

WAV.....76, 80
WebLink®.....12, 24, 39, 72, 80
WebLink® Cast.....39
Wi-Fi の設定.....23
WMA.....74, 76, 80, 82, 83

Y

YouTube.....12, 39

あ

アスペクト比.....	81
アフターサービス.....	74
アプリ.....	18, 20, 36
アンテナコントロール.....	53, 56

い

イコライザー.....	19, 48, 81
イルミネーション.....	14, 45

う

運転席位置.....	36, 37, 43
------------	------------

え

エラーメッセージ.....	72
---------------	----

お

オーディオ設定.....	46
お気に入りソース/アプリエリア... ..	18, 36, 37
音声認識.....	14, 36, 37, 40
音量調節.....	14, 36, 38

か

外部アンブ.....	60
画質調整.....	44, 50
カットオフ周波数.....	48
壁紙.....	45

き

基本操作.....	17
共通のタッチキー.....	17

こ

交通情報 (TI).....	14, 26
故障かな?と思ったら.....	70
こんなメッセージが表示されたら.....	72

さ

サブウーファー.....	48, 50, 81, 82
サブウーファースの接続.....	62
残響音.....	35

し

システム情報.....	45
システム設定.....	41
システムの接続.....	54
システムリモートコントロール.....	57, 60
車速信号.....	58
仕様.....	81

す

スタンダードモード.....	15, 47, 81
ステアリングリモコン.....	42
スピーカー出力の接続.....	57, 62, 63
スピーカー出力レベル.....	46
スピーカーモード.....	15, 16
スマートフォンの接続.....	37, 64
スロープ.....	48, 81, 82

せ

静止画.....	31, 77
接続状態.....	44
設定の初期化.....	44

そ

操作音.....	42
ソース.....	18, 20
ソフトウェア.....	18, 20, 36

た

タイムアライメント.....	47, 81, 82
タイムバー.....	17
タッチパネル.....	17

ち

着信音量.....	35
駐車アシスト線.....	50

て

ディマー設定.....	43, 44
デモモード.....	15, 43
電源コードの接続.....	56
電話帳.....	34
電話の受けかた.....	35
電話のかけかた.....	33

と

動画.....	31, 51, 77
動作を確認.....	69
時計.....	18, 42
取り付け.....	29, 52, 65, 66, 67, 68
取り付け角度.....	65

ね

ネットワークモード.....	15, 47, 82
----------------	------------

は

パーキングブレーキ.....	9, 53, 58
はじめに.....	9
バスブースト.....	49
バックカメラ.....	24, 50, 54
発着履歴.....	33
ハンズフリー.....	33
ハンズフリーエコー.....	35
ハンズフリー通話用マイク... ..	52, 54, 68, 84
バンド.....	25

ひ

ビットレート.....	76, 77, 80
表示設定.....	45

ふ

ファームウェア更新.....	12, 45
フェーダー/バランス.....	46
部品.....	52
プライベートモード.....	34, 35, 80
プリセットチャンネル.....	25, 26
プロファイル.....	21, 27, 83

へ

ベストステーションズメモリー.....	26
---------------------	----

ほ

放送局.....	25, 43
ホーム画面.....	18, 19
保証書.....	74
本体.....	52

み

ミュート設定.....	49
ミラーリング.....	39, 80

め

メディア.....	76
-----------	----

ら

ライセンス.....	45
ラウドネス.....	46
ラジオ.....	25, 43, 71

り

リアスピーカー.....	19
リアモニター.....	24
リスト.....	17
リスニングポジション.....	47

わ

ワイド画面.....	51
------------	----

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・一部のIP電話などからは、ご使用になれません。

携帯電話からは、IP電話をご利用下さい。(通話料がかかります)

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。

商品についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

パイオニア商品の取り付け・組み合わせなどについては、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

●商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター

■お客様サポートサイト

<https://jpn.pioneer/ja/support/>



■商品についてのよくあるお問い合わせ(FAQ)

<https://faq2.jpn.pioneer/>



■電話

《カーオーディオ、カーナビゲーション商品》※受付時間はお客様サポートサイトでご確認ください

【固定電話から】0120-944-111(無料)

【携帯電話から】050-3097-9332(IP電話・有料)

※カーナビゲーションの訪問宅電話番号検索機能に関する個人情報の削除などはこちらの窓口で承っております

■ファックス 0120-105-680(無料)

修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。

それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理受付窓口

■修理受付サイト

受付時間、よくあるお問い合わせなどはホームページをご確認ください

<https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/repair/>



■電話

【固定電話から】0120-5-81028(無料)

【携帯電話から】050-3097-9104(IP電話・有料)

■ファックス 0120-5-81029(無料)

部品のご購入についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

●部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について

部品受注センター

■部品受注サイト

受付時間、FAXでのご注文はホームページをご確認ください

<https://jpn.pioneer/ja/support/purpose/parts/>



■電話

【固定電話から】0120-5-81095(無料)

【携帯電話から】050-3097-9330(IP電話・有料)

■ファックス 0120-5-81096(無料)

令和6年4月現在

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.12

パイオニア株式会社

〒113-0021

東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコート

©パイオニア株式会社 2024

< OWM_DMHSZ500JP_JA_C >